

平成 2 1 年度
全国学力・学習状況調査報告書

～ 当別町における結果分析 ～

平成 2 1 年 1 2 月

当別町教育委員会

は じ め に

小学校6年生と中学校3年生を対象に、文部科学省による全国学力・学習状況調査が平成21年4月21日に実施されました。この調査の目的としては、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童・生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ること、各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図ることが挙げられています。

また、調査の内容としては、教科に関する調査（国語と算数・数学）と生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査（児童・生徒対象と学校対象）がありましたが、このたび、文部科学省より送付された本調査結果をもとに、当別町の児童・生徒の学力及び生活習慣や学習環境等の実態分析を行いました。

学力に関しては、小学校において、国語・算数の基礎的・基本的な知識に関する問題、知識・技能を活用する問題とも、それぞれ知識・技能の定着、知識・技能を活用する力に一部課題が見られ、いっそう身につけさせる必要があると考えられます。また、中学校においては、国語では基礎的・基本的な知識に関する問題、知識・技能を活用する問題とも、今回出題されている学習内容に関してはおおむね理解していると考えられ、数学についてはほぼ理解していると考えられます。

また、生活習慣、学習環境等に関しては、規則正しい生活習慣、学校への目的意識、自尊意識、社会への興味関心などが子どもたちの心を安定させ、学習意欲を高めて学力の定着に関係している傾向が見受けられます。

本報告書では、こうした調査結果を検証・分析し、教科においては課題に対応した指導改善方策の一部をとりまとめ、生活習慣や学習環境等については、学力との相関関係に注目しつつ改善の視点をまとめました。

各学校においては、本調査結果を活用いただき、今後も学校ごとにそれぞれ継続的に成果と課題を分析し、児童・生徒の学力の向上や生活習慣等の改善を図るため、より一層ご尽力いただくことを期待します。

当別町教育委員会

目 次

調査の実施概要-----	1
・教科に関する調査結果	
1 小学校国語-----	2
2 小学校算数-----	5
3 中学校国語-----	8
4 中学校数学-----	11
生活習慣や学習環境等に関する調査結果	
1 小学校における児童質問紙調査の結果-----	13
(1) 基本的な生活習慣について	
(2) 家庭学習について	
(3) 学校生活について	
(4) 自尊意識・規範意識について	
(5) 家族とのコミュニケーションについて	
(6) 興味関心・意欲について	
(7) テレビゲーム・インターネット、携帯電話について	
2 中学校における生徒質問紙調査の結果-----	21
(1) 基本的な生活習慣について	
(2) 家庭学習について	
(3) 学校生活について	
(4) 自尊意識・規範意識について	
(5) 家族とのコミュニケーションについて	
(6) 社会に対する興味・関心について	
(7) テレビゲーム・インターネット、携帯電話について	
3 学校質問紙に関する調査結果-----	28
(1) 学習態度	
(2) 学力向上に向けた取り組み	
(3) 学習支援	
(4) 国語科、算数・数学科の指導法	
(5) 地域の人材活用	
(6) 習熟度別少人数指導	

調査の実施概要

- 1 調査の目的**
- ア 全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 - イ 各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図る。

- 2 調査の対象学年**
- 小学校第6学年
 - 中学校第3学年

3 調査の内容

教科に関する調査

主として「知識」に関する問題【国語A、算数・数学A】	主として「活用」に関する問題【国語B、算数・数学B】
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備状況、児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

4 調査期日

平成21年4月21日(火)

5 当別町において調査を実施した学校・児童生徒数

	対象学校数	実施学校数(実施率)	児童生徒数
小学校	3	3(100.0%)	209
中学校	3	3(100.0%)	226
合計	6	6(100.0%)	435

教科に関する調査結果

1 小学校国語

(1) 概要

国語A 基礎的な言語活動や言語事項に関する知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題が出題されている。

今回出題されている学習内容の知識・技能の定着に一部課題が見られ、いっそう身に付けさせる必要がある。

領域別では、「書くこと」の領域はおおむね理解しているものの、「話すこと・聞くこと」「言語事項」「読むこと」の領域では、基礎的・基本的な知識・技能の定着に一部課題が見られ、いっそう身に付けさせる必要がある。

国語B 基礎的な言語活動や言語事項に関する知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題が出題されている。

国語Aに比べ国語Bの平均正答率が低く、身につけた知識・技能を活用する力に一部課題が見られ、いっそう身に付けさせる必要がある。

領域別では、「書くこと」「言語事項」の領域で、今回出題されている学習内容に関しておおむね理解しているが、「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域では、知識・技能を活用する力に一部課題が見られ、いっそう身に付けさせる必要がある。

(2) 成果と課題

話すこと・聞くこと

(A) 司会の進め方の良いところを説明することは、一部課題が見られる。

(B) 目的や意図が伝わるように必要な情報を取り出すことは、一部課題が見られる。

書くこと

(A) 文章の内容に合わせて小見出しを書くことは、ほぼ理解している。

(A) はがきの表書きに必要な事柄の順序を考えて書くことは一部課題が見られ、身に付けた知識・技能をいっそう身に付けさせる必要がある。

(B) 調べる内容を見通して、必要な事柄を整理することは、ほぼ理解している。

(B) 目的や意図に応じて、事象や意見などを関係付けながら書くことについては、一部課題が見られ、知識・技能を活用する力をいっそう身に付けさせる必要がある。

読むこと

- (A) 段落の内容を的確にとらえることについては、一部課題が見られ知識・技能をいっそう身に付けさせる必要がある。
- (B) 筆者の表現の工夫に着目して読むことについては、一部課題が見られ知識・技能を活用する力をいっそう身に付けさせる必要がある。
- (B) 目的や意図に応じて自分の考えをまとめることについては、定着に課題が見られ、知識・技能を活用する力をさらに身に付けさせる必要がある。

言語事項

- (A) 学年別漢字配当表の当該学年の前の学年までに配当されている漢字を正しく書くことは、課題が見られ、基礎的・基本的な知識・技能をさらに身に付けさせる必要がある。
- (A) 学年別漢字配当表の当該学年の前の学年までに配当されている漢字を正しく読むことは、ほぼ理解している。
- (A) ローマ字で表記されたものを正しく読むことについては一部課題が見られ、知識・技能をいっそう身に付けさせる必要がある。
- (A) ひらがなで表記されたものをローマ字で書くことは一部課題が見られ、知識・技能をいっそう身に付けさせる必要がある。

...相当数の児童ができている点 ...課題のある点

() 内の記号は A = 国語 A、 B = 国語 B

(3) 指導改善のポイント

話すこと・聞くこと

目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら話す指導の充実

- ・自分の立場を明確にし、事実と感想、意見などを区別しながら説明したり、報告したりする言語活動を充実することが大切である。
- ・説明や報告をするときには、図表やグラフ、映像や実物などの資料を提示しながら事柄の相互の関係を整理して話したり、それらを聞いて助言や提案などをしたりする言語活動を充実することが大切である。

書くこと

目的や意図に応じて、書く事柄を収集・整理し、事実と感想、意見などを区別しながら書く指導の充実

- ・ 報告文などを記述する前段階においては、必要な事柄についてメモを使って収集したり、構成表を用いて整理したりする言語活動を充実することが大切である。
- ・ 調査報告文などを記述するときは、調べる目的や理由、調べる内容や結果、まとめなどを明確にし、それらを関係付けながら文章全体として首尾一貫したものになるように指導を充実することが大切である。

読むこと

目的や意図に応じて、表現の仕方に注意しながら文章の内容を的確に押さえて読んだり、自分の考えを明確にして読んだりする指導の充実

- ・ 読んだ本や文章を説明したり紹介したりするなどの目的をもち、登場人物の行動や性格、場面についての描写など表現工夫に着目して想像を豊かに読む指導を充実することが大切である。
- ・ 筆者がどのような事実を取り上げ、理由や根拠を示し、感想や意見、判断や主張などを行い、読み手をどのように説得したり論証したりしているかなどを理解し解釈する指導が大切である。さらに、筆者の意図や思考を想定しながら、筆者が文章全体をどのように構成し表現しているかを把握した上で、自分の考えを明確にしていくように指導を充実することが大切である。

言語事項

ローマ字を繰り返し読んだり、書いたりする指導の充実

- ・ コンピューターを使った学習などと関係付けて、ローマ字を繰り返し読んだり、書いたりする機会を増やすような指導を充実することが大切である。

文の構成や文と文とのつながりを確かめて話したり書いたりする指導の充実

- ・ 単文、重文、複文などの構成で書かれた文の内容を論理的に関係付けたり、長文になった一文を接続語を使って複数の文に分けたりする指導を充実することが大切である。

用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを整えて書く指導の充実

- ・ 読み手への伝達効果を考えて、用紙全体との関係から、大きさ、行間、字間などを整え、文字を丁寧に書く指導を充実することが大切である。

2 小学校算数

(1) 概要

算数A 数量や図形についての基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題が出題されている。

今回出題されている学習内容の基礎的・基本的な知識・技能の定着に一部課題が見られ、いっそう身につけさせる必要がある。

領域別に見ると、「数と計算」「図形」の領域ともに一部課題が見られ、いっそう身に付けさせる必要がある。「量と測定」「数量関係」の領域では、知識・技能の定着に課題があり、さらに身に付けさせる必要がある。

算数B 数量や図形についての基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題が出題されている。

算数A に比べ、算数Bの平均正答率が低く、今回出題された学習内容の知識・技能を活用する力に一部課題が見られ、いっそう身に付けさせる必要がある。

領域別に見ると、「数と計算」「図形」「量と測定」「数量関係」のすべての領域で、学習内容の知識・技能を活用する力に一部課題があり、いっそう身につける必要がある。

(2) 成果と課題

数と計算

- (A) 整数、小数、分数の四則計算は、ほぼ理解している。
- (A) 数の構成については、ほぼ理解している。
- (A) 数直線から数を読み取ることや四捨五入、偶数の意味についての理解は一定の課題があり、知識・技能をいっそう身に付けさせる必要がある。
- (B) 図形を見出し長さを求めるために必要な情報を選択し求め方を式に表すことや整数と少数の加法を用いて重さを求めることは、ほぼ理解している。
- (B) 棒グラフから必要な数量を読み取り差を概数で見積もることはほぼできている。
- (B) 調べた結果を振り返りきまりを見出すことでは、知識・技能を活用する力をいっそう身に付けさせる必要がある。
- (B) 与えられた情報を整理選択して筋道を立てて考え、示された判断が正しい理由を式と言葉を用いて記述することに、一定の課題がある。知識・技能を活用する力をいっそう高めていく必要がある。

量と測定

- (A) 長さについての感覚を身に付けることは、ほぼできている。
- (A) 角の大きさを測定することについては定着に課題が見られ、基礎的・基本的な知識技能をさらに身に付けさせる必要がある。
- (B) 与えられた条件で筋道を立てて考え選択することについては、知識・技能を活用する力をいっそう高めていく必要がある。

図形

- (A) 長方形・三角形の定義や性質は、ほぼ理解している。
- (B) 四角形の内角の和の求め方は、ほぼ理解している。
- (B) 示された部分の長さを図形の性質を基に考えることや見方を変えた解決方法を記述することには一部課題がある。知識・技能を活用する力をいっそう高めていく必要がある。

数量関係

- (A) 百分率を求めることについては、ほぼ理解している。
- (A) 減法と除法の混合した整数の計算や資料を分類整理して表を用いてあらわすことについては、定着に課題がある。基礎的・基本的な知識・技能をさらに身に付けさせる必要がある。
- (B) グラフから情報を読み取ることは、ほぼできている。

- (B) グラフの特徴を基に数量の変化の様子をとらえることに課題がある。知識・技能を活用する力をさらに高めていく必要がある。

...相当数の児童ができている点 ...課題のある点

() 内の記号は A = 算数 A、B = 算数 B

(3) 指導改善のポイント

数と計算

一目盛りの大きさに着目して数直線から数を読み取る活動の充実

- ・一目盛りの大きさが様々な数直線から数を読み取ったり、一目盛りの大きさを自由に決めて数を読み取ったりする活動の充実を図ることが大切である。そのような活動を通して、一目盛りの大きさの取り方によって数直線上に様々な数を位置づけられることを実感できるようにすることが必要である。

必要な情報を整理したり選択したりして、判断の正しさを説明する活動の充実

- ・判断の正しさを説明する場面を設定し、何を述べる必要があるかを考えたり、不十分な説明を適切な説明に改善したりする活動の充実を図ることが大切である。

量と測定

三角形の底辺や高さを理解し、面積を求めるために必要な長さを測定する活動の充実

- ・ 辺の長さを示さずに図形を提示して、面積を求めるためにどの部分の長さが必要かを考えたり、その長さを測定したりする活動の充実を図ることが大切である。

問題場面の情報を整理し、必要な条件を考慮して、筋道を立てて考える活動の充実

- ・ 問題場面の情報を整理して図に表したり、解決に必要な条件を書き出したりする活動の充実を図ることが大切である。答えを求めた後に条件と照らし合わせたり、条件に合うものが他にないかを確認したりする活動を取り入れることも必要である。

図形

他者の解決方法を基に、見方を変えて新しい解決方法を考え、説明する活動の充実

- ・ いろいろな考え方や解決方法を発表しあう場を設定し、他者の発言や記述の内容を基に考え方を理解したり、自分の考え方を分かりやすく説明したり出来るようにする活動の充実を図ることが大切である。

身の回りの事象を観察して図形を見出し、問題解決に必要な情報を選択する活動の充実

- ・ 学習した図形を身の回りから見出す活動や、見出した図形のどの情報を用いれば問題を解決できるかを考える活動の充実を図ることが大切である。

数量関係

百分率の意味や割合の考えを理解できるようにする指導の充実

- ・ 問題場面から基準量と比較量をとらえたり、基準量を100として比較量が幾つになるかを考えて割合をとらえたりする活動の充実を図ることが大切である。
- ・ 割合の大小を判断する問題を扱い、計算して割合を求めたり、数直線で割合を表したり、円グラフなどをかいたりする活動を取り入れて、基準量と比較量の両方に着目して割合を考えられるようにする指導を重視することが大切である。

計算の順序についてのきまりを基にして計算の過程を説明する活動の充実

- ・ 乗法・除法を加法・減法より先に計算するという計算の順序についてのきまりは、いろいろな場面をとらえて指導し、確実に理解できるようにする指導が大切である。四則の混合した様々な計算をする機会を設け、計算のきまりを基にして計算過程を説明する活動の充実を図ることが大切である。

3 中学校国語

(1) 概要

国語A 基礎的な言語活動や言語事項に関する知識・技能が身につけているかどうかをみる問題が出題されている。

今回出題されている学習内容に関しては、おおむね理解している。

領域別に見ると、「話すこと・聞くこと」「読むこと」「言語事項」「書くこと」のすべての領域で、おおむね理解している状態である。

国語B 基礎的な言語活動や言語事項に関する知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題が出題されている。

当別町の中学生は、今回出題されている学習内容をおおむね理解している。

領域別に見ると、「話すこと・聞くこと」の領域は、ほぼ理解している。残りの「書くこと」「読むこと」「言語事項」の領域では、今回出題された学習内容をおおむね理解している。

(2) 成果と課題

話すこと・聞くこと

(A) 話の内容から必要な情報を的確に聞き取ることは、ほぼ理解している。

(A) 聞いた話の中に必要な情報が含まれているかを判断し、適切に質問することは、ほぼ理解している。

(A) 効果的なスピーチをするために話の展開の仕方を工夫することや話し方の工夫については一部課題が見られ、知識・技能をいっそう身に付けさせる必要がある。

書くこと

(A) 主語に対応させて述語を適切に書くことは、ほぼ理解している。

(B) 書かれている内容をとらえ、資料に基づいて自分の考えを説明することの知識・技能には一部課題があり、いっそう身に付けさせる必要がある。

(B) 文章から必要な情報を読み取り、簡潔にまとめて書くことの知識・技能には一部課題が見られ、いっそう身に付けさせる必要がある。

読むこと

(A) 本文の表現の仕方や特徴に注意して内容を正確に読み取ることは、ほぼ理解しているが、順番通り展開に即して読み取ることには若干課題がある。

(A) 目次の特徴や役割を理解し、必要な情報がどこにあるのか見当をつけることは、ほぼ理解している。

- (A) 短歌について語句の意味は理解しているが、形式に従って意味のまとまりをつかむことや表現に注意して内容を理解することについては一部課題があり、知識・技能をいっそう身に付けさせる必要がある。
- (B) 表現の仕方や文章の特徴をとらえることはほぼ理解している。
- (B) 詩の内容や構成、表現上の特徴などを踏まえて自分の考えを書くことには一部課題があり、いっそう身につけさせる必要がある。
- (B) 文章と補助資料とのかかわりは、ほぼ理解している。

言語事項

- (A) 語句の意味を理解し文脈の中で適切に使うことは、ほぼ理解している。
- (A) 文脈に即して漢字を正しく書くことは、ほぼ理解している。
- (A) 文脈に即して漢字の読みはほぼ理解している。
- (A) 行書の基本的な書き方を理解し配列に気をつけて書くことは、ほぼ理解している。
- (A) 辞書を活用して漢字が表している意味を正しくとらえることはほぼ理解している。
- (A) 辞書を活用して慣用句の意味を適切に書くことは、ほぼ理解している。

...相当数の生徒ができている点 ...課題のある点

() 内の記号は A = 国語 A , B = 国語 B

(3) 指導改善のポイント

話すこと・聞くこと

自分の考えを的確に話したり、情報を的確に聞き取ったりする指導の継続

- ・自分の考えを的確に話す力を身に付けるために、聞き手の反応を考えた話し方や聞き手の理解を助けるような話の展開の仕方を考えさせることが大切である。
- ・情報を的確に聞き取る力を身に付けさせるために、情報に不足がないかを判断させたり、必要に応じて質問させたりするなど、具体的な言語活動を通して指導することが大切である。

書くこと

書いた文章を推敲する態度や方法を身に付ける指導の工夫

- ・読みやすくわかりやすい文章を書く力を身に付けさせるために、書いた文章を読み返す機会を学習に位置づけて、推敲することが習慣になるよう指導する必要がある。具体的には、書き終えた文章のみでなく、書いている途中の文章をペアやグループで読みあい、検討する場面を設定することも大切である。その際、適切な助言が出来るよ

うに、推敲の観点を具体的に示すことが大切である。

資料に表れている工夫を自分の表現に活用する言語活動の工夫

- ・目的や意図に応じて書く力を身に付けるために、案内や報告をする文章を書く際に、本や新聞、パンフレットなど、それぞれの資料の特性を考えながら、表現の工夫を自分の表現に活用する場面を設定することが大切である。

読み取った情報を簡潔にまとめて書く指導の工夫

- ・情報を活用する際には、読み取った情報を分類したり整理したりする必要がある。そのためには、一つ一つの情報を箇条書きで書かせたり、必要に応じて短い言葉でまとめて書かせたりする指導が重要である。

読むこと

短歌の形式に従って内容を理解する指導の工夫

- ・短歌に表れている内容を理解するために、言葉のつながりや意味のまとまりに着目して句の切れ目を考えさせ、構造をとらえさせることが大切である。なお、近・現代短歌や俳句に用いられる文語表現に関心を持たせることも大切である。

文章と補助資料とのかかわりをとらえて内容を読み取る言語活動の工夫

- ・書かれている内容をより深く理解するために、文章と図表などの補助資料との関連を考える必要がある。図表に対応している部分を指摘したり、図表を使って文章の要点を説明したりする学習を計画的に設けることが大切である。

言語事項

言葉への関心を高め、言語感覚を豊かにする指導の工夫

- ・言葉への関心を高め、言語感覚を豊かにするために、国語辞典や漢和辞典を使用する機会を意図的に設けることが必要である。その上で、調べたことを話す・聞く、書く、読むという言語活動に生かしていくようにすることが重要である。

4 中学校数学

(1) 概要

数学 A	数量や図形などについての基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題が出題されている。 今回出題されている学習内容については、基礎的な知識・技能をほぼ理解している。 領域別では、「図形」の領域は、ほぼ理解している。「数と式」「数量関係」の領域は基礎的・基本的な知識・技能をおおむね理解している。
数学 B	数量や図形などについての基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題が出題されている。 数学 A に比べ数学 B の平均正答率は全国的に低い傾向にあるが、当別町の中学生は今回出題された学習内容をほぼ理解している状態である。 領域別では、「図形」の領域はほぼ理解しており、「数量関係」「数と式」の領域では、今回出題された学習内容について、おおむね理解している状態である。

(2) 成果と課題

数と式	(A)単項式どうしの乗法、等式の変形、そして簡単な一元一次あるいは連立二元一次方程式については、出題されている学習内容についてほぼ理解している。 (A)比の意味の理解では定着に課題が見られ、知識・技能をさらに身に付けさせる必要がある。 (A) 文字式の考察及び比の意味の理解について一部課題が見られ、基礎的・基本的な知識・技能をいっそう身につけさせる必要がある。 (B)説明を振り返って考えることができるは、ほぼ理解している。 (B)問題場面における考察の対象を明確にとらえることについては、知識・技能をおおむね理解している。
図形	(A)点対称・線対称、展開図の位置関係、角の性質は、ほぼ理解している。 (A)扇形の面積が中心角に比例することの理解には一部課題が見られ、いっそう身につけさせる必要がある。 (A)同位角の意味を理解しているは、ほぼ理解している。 (A) 三角形の合同を方針に基づいて証明するについては、ほぼ理解している
数量関係	(A) 比例定数の意味は、ほぼ理解している。 (A) 一次関数のグラフの特徴は、ほぼ理解している。 (A)反比例の関係を式で表すことは一部課題が見られる。 (A)二元一次方程式の解が直線として表せられることは一部課題が見られる。 (B)表から必要な情報を読み取ることは、一部課題が見られる。 (B)事柄が成り立つ理由を筋道を立てて説明することは、一部課題が見られる。 (B)不確定な事象について実験で確かめる方法を考えることは、ほぼ理解している。

…相当数の生徒ができています点 …課題のある点

()内の記号は A = 数学 A、B = 数学 B

(3) 指導改善のポイント

数と式

方程式をつくるために、着目する数量を見出す活動の重視

- ・ある数量に着目して、等しい関係を意識して方程式を作ることの理解したり、方程式がどのような数量に着目してつくられているのかを振り返ったりする活動をいっそう重視することが大切である。

理由を説明するために何を示せばよいかを見通す活動の充実

- ・事柄が成り立つ理由を説明するために、具体的な例を調べることを通して説明の見通しを持ち、結論を導くために必要な根拠が何かを明らかにして、口述したり記述したりする活動を充実させることが大切である。

図形

帰納と演繹の違いに着目して、証明の意義を理解する活動の重視

- ・帰納的な方法の役割と限界を理解し、演繹的な推論による証明により命題が例外なしに成り立つことを明らかに出来ることの理解を深める活動をいっそう重視することが大切である。

図形の特徴を的確にとらえ、数学的な表現を用いて説明する活動の充実

- ・日常的な事象を数学化する過程において、事象の観察を通して把握した事柄を記述したり、発表したりして、その表現を数学的に洗練していく活動を充実させることが大切である。

数量関係

反比例の関係について表、グラフを関連付けて理解する活動の重視

- ・具体的な事象における2つの数量の関係を表に表し、表から数量の特徴を見出して式をつくるなど、表、グラフ、式を関連付ける活動をいっそう重視することが大切である。

二元一次方程式の解の集合とグラフの関係について理解する活動の重視

- ・二元一次方程式の解の集合が直線になることの理解を深める活動や、方程式による表現とそのグラフによる表現を相互に関連付けてとらえる活動をいっそう重視することが大切である。

日常的な事象で成り立つ事柄を一次関数を用いて解釈し説明する活動の充実

- ・日常的な事象の考察に当たって、複数の事象を比較しやすくするために、グラフに表現したりグラフから情報を読み取ったりする活動や、グラフを活用し、グラフの特徴を事象に戻して考える活動を充実させることが大切である。
- ・数学を活用して日常的な事象の問題を解決する方法について、グラフや式など「用いるもの」とその「用い方」を口述したり記述したりして説明する活動を充実させることが大切である。

生活習慣や学習環境等に関する調査結果

1、小学校における児童質問紙調査の結果

(1) 基本的な生活習慣について

「学校に持っていくものを前日かその日の朝に確かめている」児童の割合は72.2%で、全国よりも6.6ポイント高く、全道とほぼ同様である。

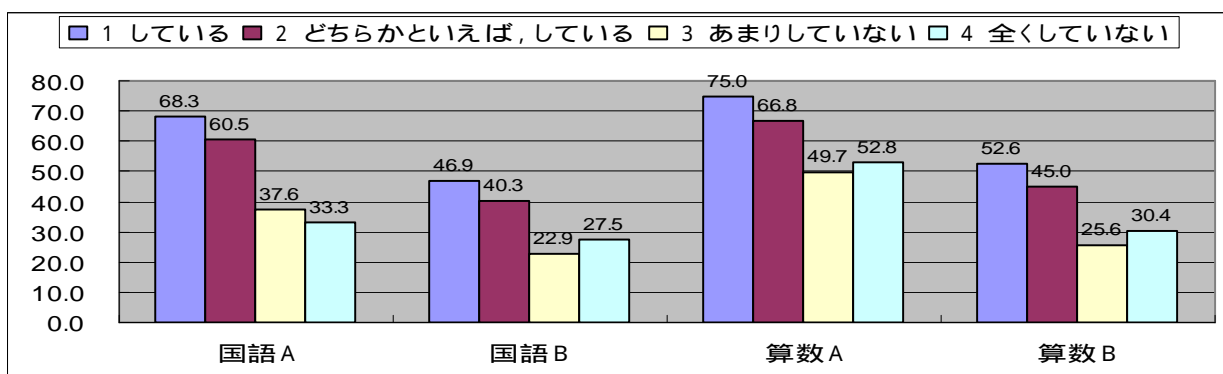
「毎日同じくらいの時刻に起きる」割合は60.3%で、全国よりも0.7ポイント低く、全道よりも1.2ポイント高い。

「同じくらいの時刻に寝る」割合は42.6%で、全国よりも5.1ポイント高く、全道よりも4.5ポイント高い。

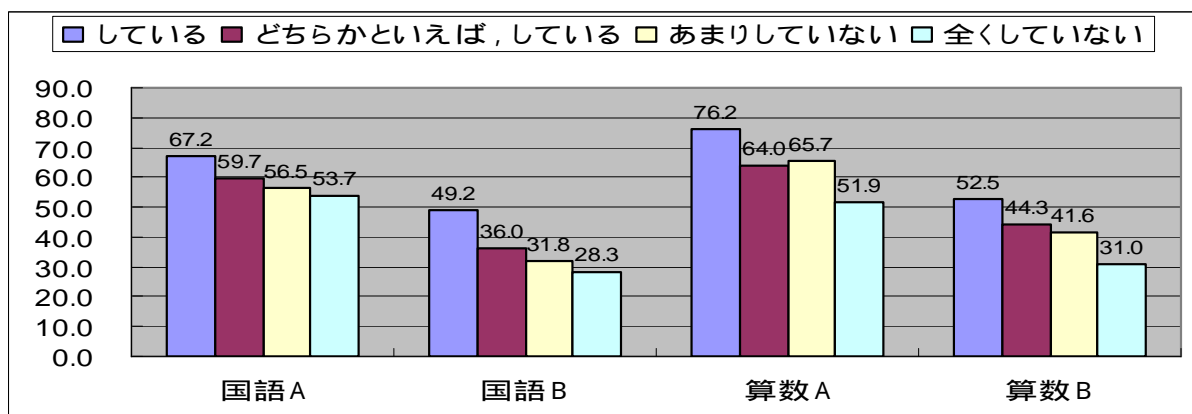
質問紙調査の結果と各教科の正答率との間に相関関係が見られた項目

学習道具を確認する児童の方が、正答率が高い傾向が見られる。

質問：学校に持っていくものを前日かその日の朝に確かめている



質問：毎日同じくらいの時刻に起きている



【考察】

基本的な生活習慣に関する本町の小学6年生の傾向としては、自分で学習用具を確認したり同

じくらの時刻に起きる児童の方ほど、正答率が高い傾向にある。

しかし、朝食を毎日食べている割合は、今年度は全国・全道よりも低く、毎日朝食を食べている児童の方が全国的に正答率が高い傾向にあることから、学力をより高めていくうえでも「早寝早起き朝ごはん運動」を徹底していく必要がある。

(2) 家庭学習について

家庭で宿題をしている児童の割合は62.2%で、全国より22.1ポイント、全道よりも9.8ポイント低く、かなり低いといえる。

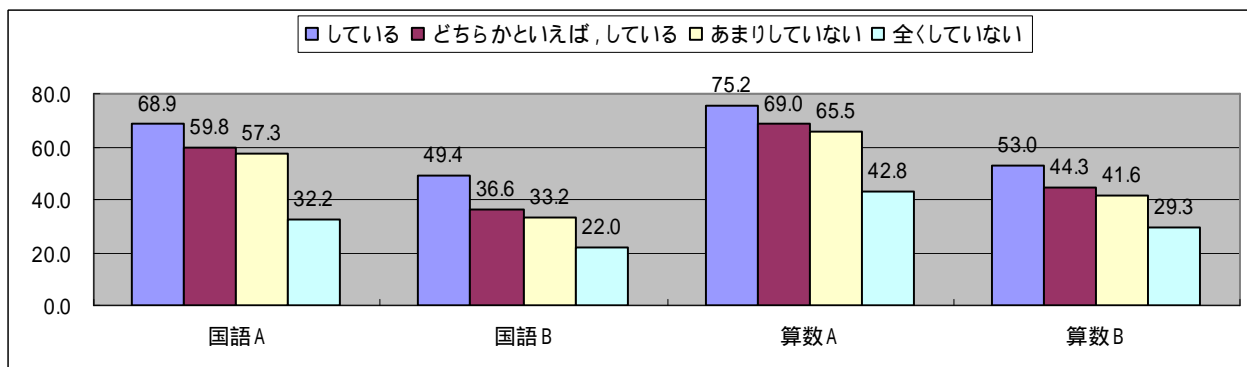
学校の授業の授業以外で普段一日に1時間以上勉強している児童の割合は44.0%で、全国より13.2ポイント低く、全道より3ポイント高い。

家で、テストで間違えた問題を後で勉強している児童の割合は23.4%で、全国より3.21ポイント高く、全道より0.9ポイント低い

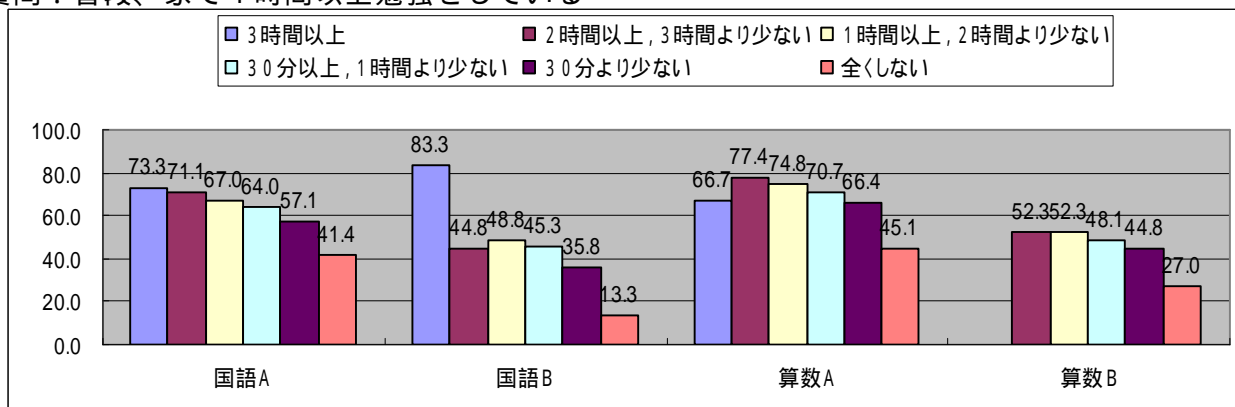
質問紙調査の結果と各教科の正答率との間に相関関係が見られた項目

家で自分で計画を立てて勉強している児童、家で学校の宿題をする児童、家で授業の予習・復習をしている児童の方が、正答率が高い傾向が見られる。

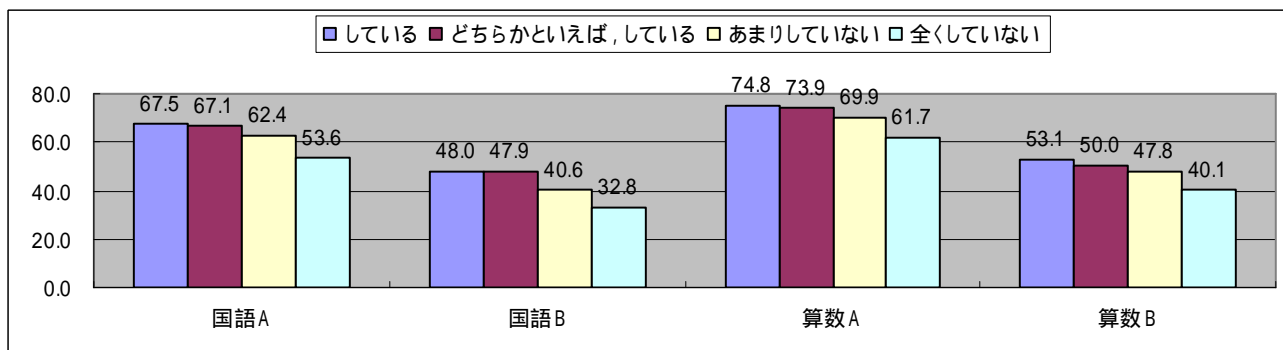
質問：家で学校の宿題をしていますか



質問：普段、家で1時間以上勉強をしている



質問：家で、テストの間違った問題を後で勉強する



【考 察】

一定の家庭学習時間の習慣がある割合は、理解の割合と比例している。また、宿題や予習・復習などの学習習慣の定着は最重要課題といってもよい大切な要素なので、家庭と連携して、いっそう充実させる必要がある。そのため、学習習慣の定着を図るためには、TVを見る時間やゲームをする時間などについて、家庭での約束をしっかりと定めて、生活のリズム化を確立させることが重要である。

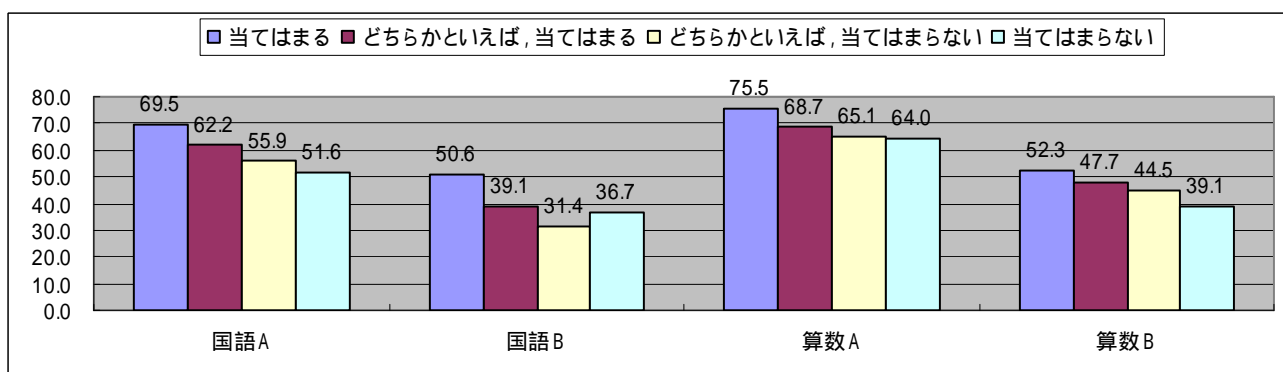
(3) 学校生活について

学校で友達と会うのが楽しい児童の割合は83.3%で、全国とほぼ同様であり、全道より2ポイント高い。
好きな授業がある児童の割合は、73.2%で、全国より5.5ポイント低く・全道より5.7ポイント低い。

質問紙調査の結果と各教科の正答率との間に相関関係が見られた項目

読書好きな児童の方が、正答率が高い傾向が見られる

質問：読書は好きですか



【考 察】

各学校で朝読書の取り組みを行っているが、読書の好きな児童の方が各教科の正答率が高い傾向にある。

また、学校で友達に会うのを楽しみにしている児童の割合は全国・全道とほぼ同傾向にあるが、好きな授業がある割合は全国・全道よりも低く、学校の授業をもっと魅力あるものにする取り組みが望まれる。

(4) 自尊意識・規範意識について

自分には良いところがあると思う児童の割合は35.4%で、全国より3.1ポイント、全道より6.4ポイント高い。

将来の夢や目標を持っている児童の割合は74.2%で、全国より4.2ポイント、全道より5.5ポイント高い。

人の役に立つ人間になりたいと思う児童の割合は73.2%で、全国より5.6ポイント、全道より7.4ポイント高い。

質問紙調査の結果と各教科の正答率との間に相関関係が見られた項目

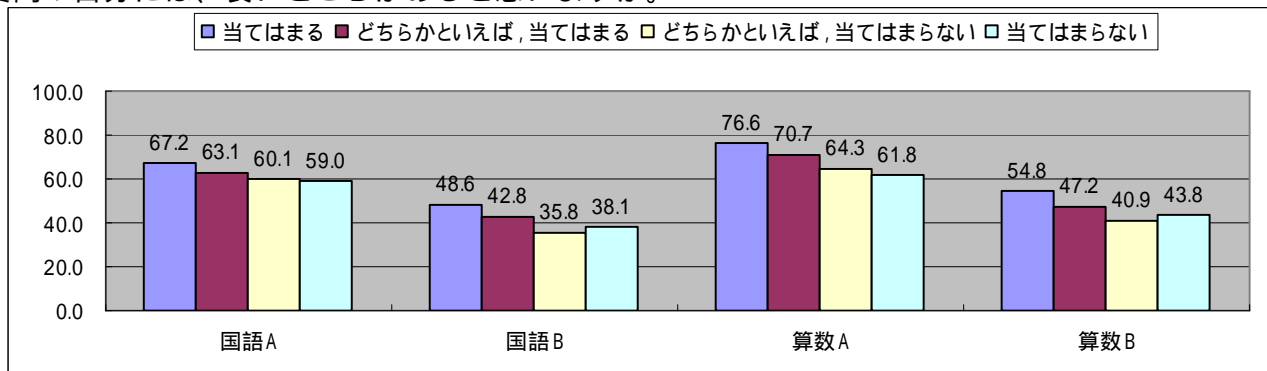
自分には良いところがあると思っている児童の方が正答率が高い傾向にある。

人の役に立ちたいと思っている児童の方が、正答率が高い傾向にある。

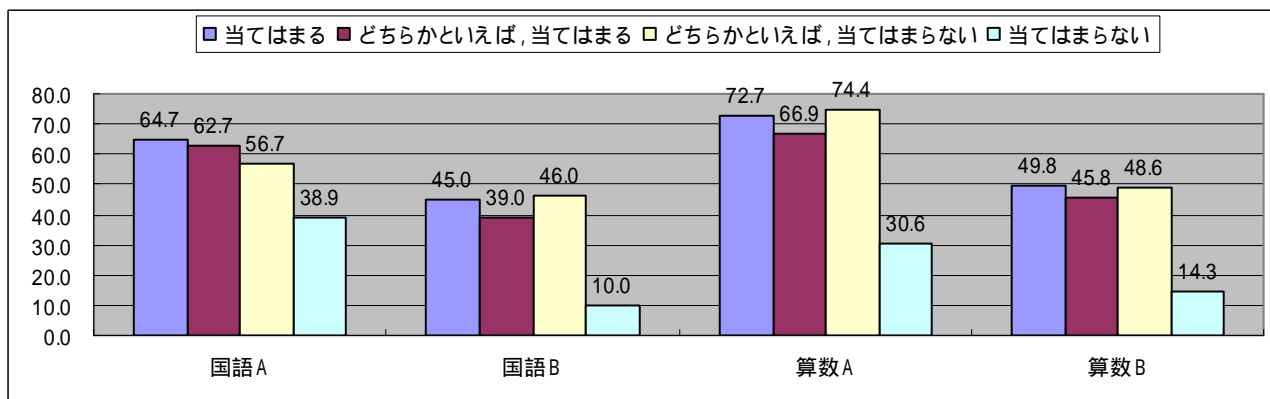
将来の夢や目標を持っている児童ほど正答率が高い傾向にある。

いじめはいけないことだと思う児童ほど正答率が高い傾向にある。

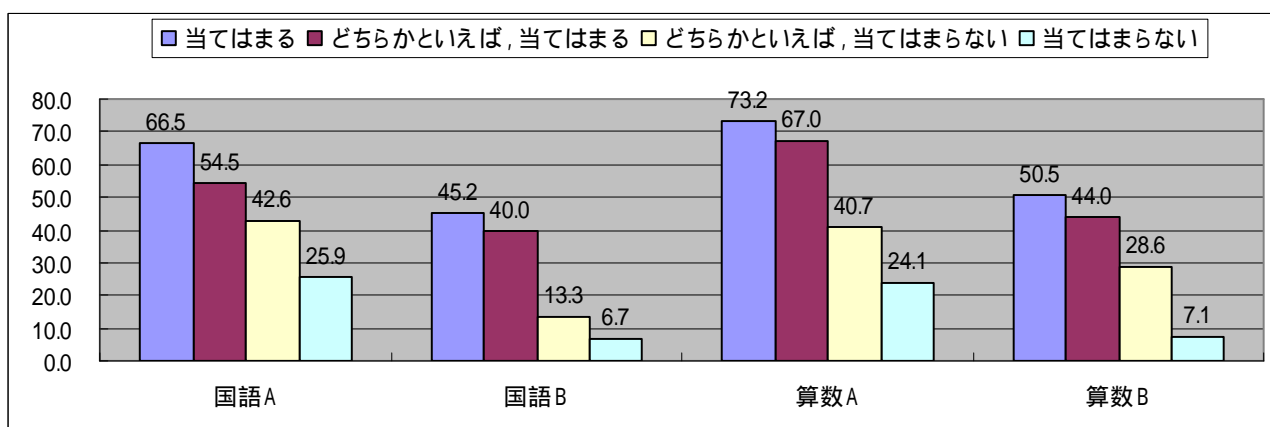
質問：自分には、良いところがあると思いますか。



質問：人の役に立つ人間になりたいと思いますか



質問：いじめは、どんな理由があってもいけないと思いますか



【考 察】

自尊意識・規範意識が高く、肯定的にものごとを考える児童は、正答率が良いということが出来る。また、本町の児童は「いじめはどんな理由があってもいけない」と考えている割合が全国・全道よりも高く、これまで取り組んできた「人権尊重」の教育が確実に成果を現しているといえる。

したがって、学習においても学校生活においても、さらに「存在感」を感じる場面を設定し、児童の活動場面を設定して、積極性や意欲化を図ることが重要なことである。そしてそれが「学力向上」にもつながっていくことになる。

(5) 家族とのコミュニケーションについて

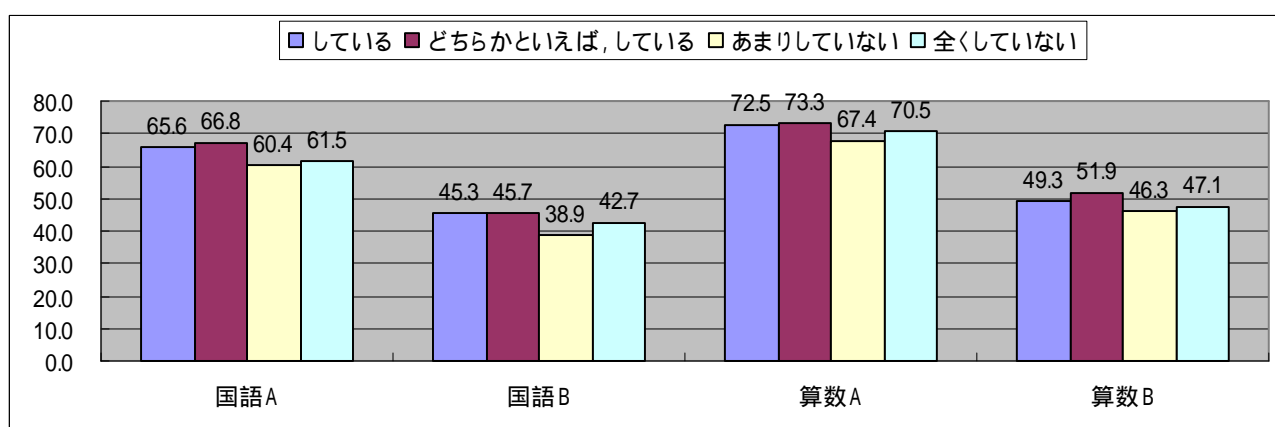
「家の人と普段(月～金曜日)朝食を一緒に食べている」児童の割合は、38.8%で、全国より5.2ポイント、全道より4.3ポイント低い。

「家の人と普段(月～金曜日)夕食を一緒に食べている」児童の割合は、72.2%で、全国より1.3ポイント高く、全道とほぼ同じである。

家の手伝いをする児童の割合は、35.4%で、全国より5.5ポイント、全道より6.1ポイント高い

質問紙調査の結果と各教科の正答率との間に相関関係が見られた項目

質問：家の人と朝食を一緒に食べている



【考察】

家の人と朝食・夕食を一緒に食べている児童の割合が全国・全道と比較して低い傾向にある。本町の児童は朝食を家族と一緒に食べる割合が低いのもっと高めて、家族と円滑なコミュニケーションが図られるようにすることが望まれる。

(6) 社会に対する興味関心・意欲について

新聞テレビなどのニュースに関心がある児童の割合は、34.4%で、全国より6ポイント、全道より5.8%今年度は高くなっている。

今住んでいる地域の行事に参加している児童の割合は37.8%で、全国より5ポイント、全道より10.8ポイント高い。

今住んでいる地域の歴史や自然について関心がある児童の割合は、20.6%で、全国より2.1ポイント高く、全道より3.2ポイント高い。

総合的な学習が好きな児童の割合は41.1%で、全国より5ポイント、全道より0.7ポイント高い。

質問紙調査の結果と各教科の正答率との間に相関関係が見られた項目

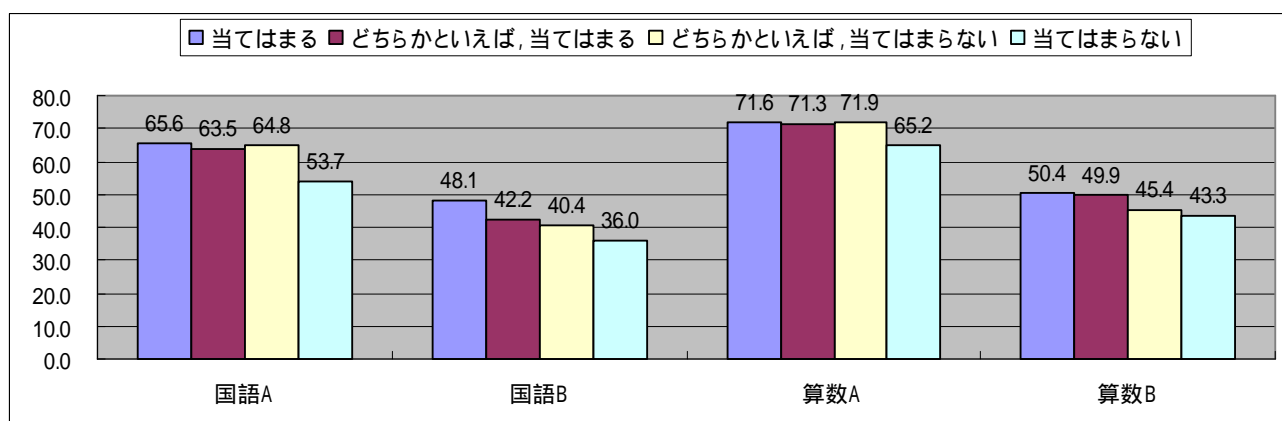
新聞やテレビのニュースに関心のある児童の方が正答率が高い傾向にある。

「総合的な学習の時間」の授業で新しいことが発見できている児童の方が正答率が高い傾向にある。

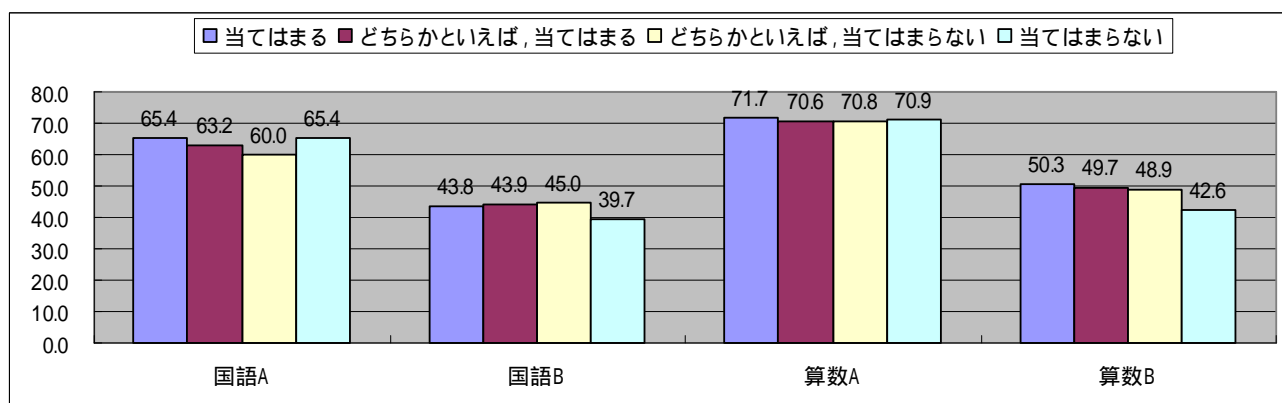
テストで間違えた問題を後で勉強する児童の方が正答率が高い傾向にある。

普段の授業で自分の考えを発表する機会が与えられていると思っている児童の方が、正答率が高い傾向にある。

質問：新聞やテレビのニュースに関心がありますか



質問：今住んでいる地域の行事に参加していますか



【考察】

新聞やテレビのニュースなど、社会に関する興味・関心は今年度本町の児童は高くなった。この興味・関心・意欲の高まりが正答率とも比例していることから、さらに関心を高める工夫が必要である。また、総合的な学習の勉強が好きな割合が高いことも本町の特色であり、「自分で課題を見つけ、自分で解決していく力」を高め、今後一層、郷土を愛する心を育てていくことが極めて重要である。

(7) テレビ・ゲーム、インターネット、携帯電話について

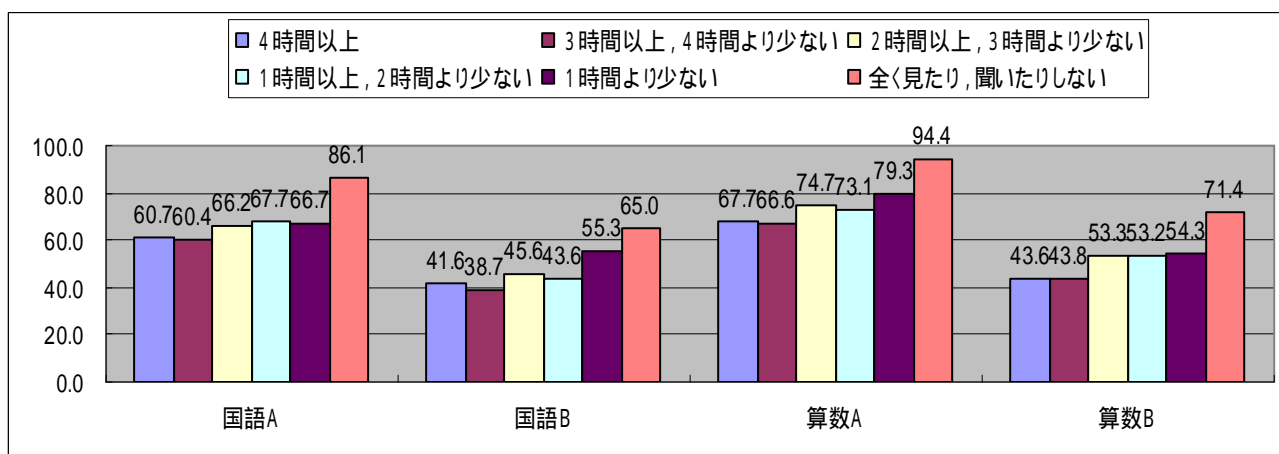
「普段1日あたり2時間以上、テレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりする」児童の割合は76.1%で、全国に比べ6.6ポイント、全道に比べ3.5ポイント高い。

「普段1日あたり1時間以上、テレビゲームをする」児童の割合は62.2%で、全国に比べ14.4ポイント高く、全道に比べ4.8ポイント高い。

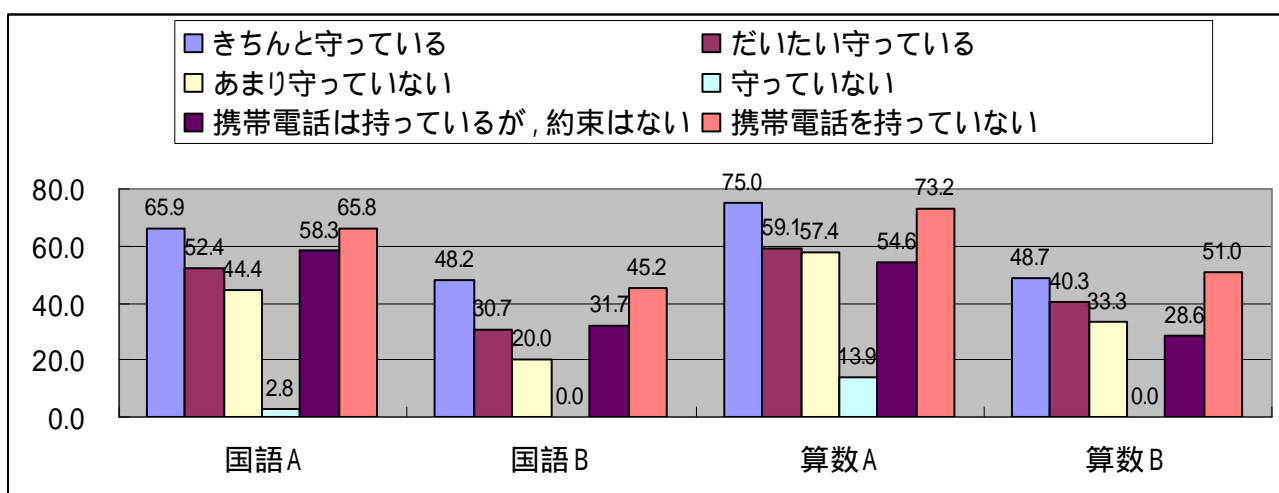
携帯電話の使い方について、家の人と約束したことを守っている児童の割合は10.5%で、全国に比べ5.8ポイント、全道に比べ4.4ポイント低い

質問紙調査の結果と各教科の正答率との間に相関関係が見られた項目

質問：普段1日あたりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりしていますか



質問：携帯電話の使い方について家の人と約束したことを守っている



【考察】

テレビやゲーム、インターネット等の利用時間は本町の児童は、全国・全道よりも高く、携帯電話の使い方の約束など、家庭内のルール作りが重要な課題となっている。

ネットに関わる事件事故防止のためには、学校と家庭の協力が重要であり、関係機関との連携を図っていくことが大切である。

2. 中学校における生徒質問紙調査の結果について

(1) 基本的生活習慣について

「学校に持って行くものを、前日か、その日の朝に確かめている」生徒の割合は78.8%で、全国より13.5ポイント、全道より1.2ポイント高い。

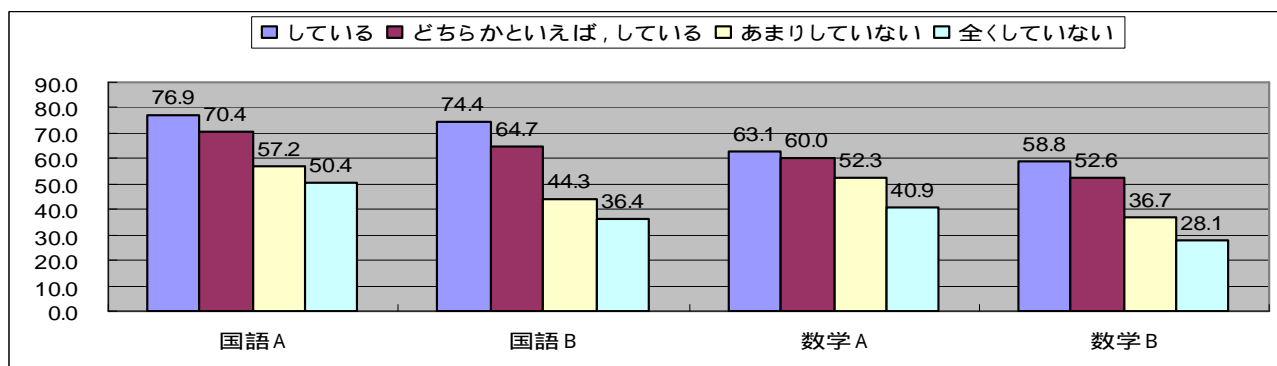
「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」生徒の割合は29.2%で、全国より1.2ポイント高く、全道より0.7ポイント高い。

「毎日、同じくらいの時刻に起きている」生徒の割合は60.2%で、全国より、4.3ポイント、全道より2.7ポイント高い

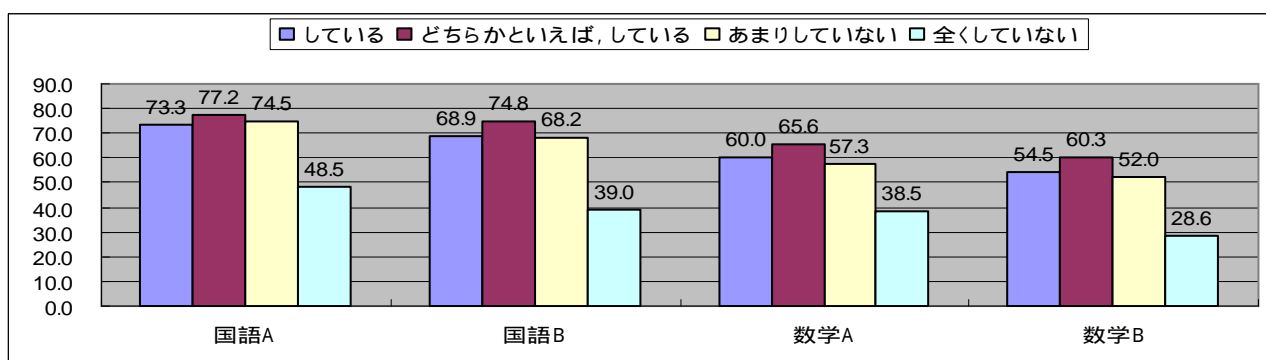
質問紙調査の結果と各教科の正答率との間に相関関係が見られた項目

事前に持ち物を確認する生徒の方が、正答率が高い傾向にある。
 規則的に決まった時間に起きている生徒の方が、正答率が高い傾向にある。

質問：学校に持って行くものを、前日か、その日の朝に確かめていますか。



質問：毎日、同じくらいの時刻に起きている。



【考察】

全国、全道に比べて、基本的生活習慣は、概ね身につけている。生徒が規則正しい生活を送るためには、学校のみならず、家庭での指導も大切である。安定した生活習慣を定着させ、学力向上を図るために「早寝、早起き、朝ご飯」運動を推進し、家庭との更なる連携が大切である。

(2) 家庭学習について

「学校の時間以外で普段（月～金曜日）に1時間以上勉強している」生徒の割合は62.3%で、全国に比べ3ポイント低く、全道に比べ5.3ポイント高い

「家で学校の宿題をしている」生徒の割合は55.3%で、全国に比べ0.3ポイント低く、全道に比べ3.5ポイント高い。

家でテストで間違えた問題について後で勉強している生徒の割合は11.9%で、全国に比べ0.3ポイント、全道に比べ3.6ポイント低い。

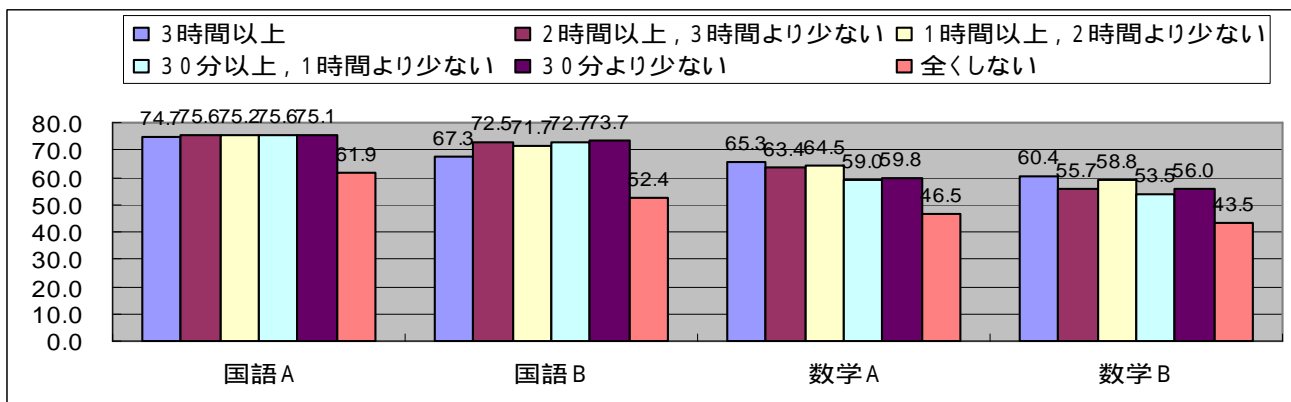
質問紙調査の結果と各教科の正答率との間に相関関係が見られた項目

自ら学習計画を立てられる生徒の方が、正答率が高い傾向にある。

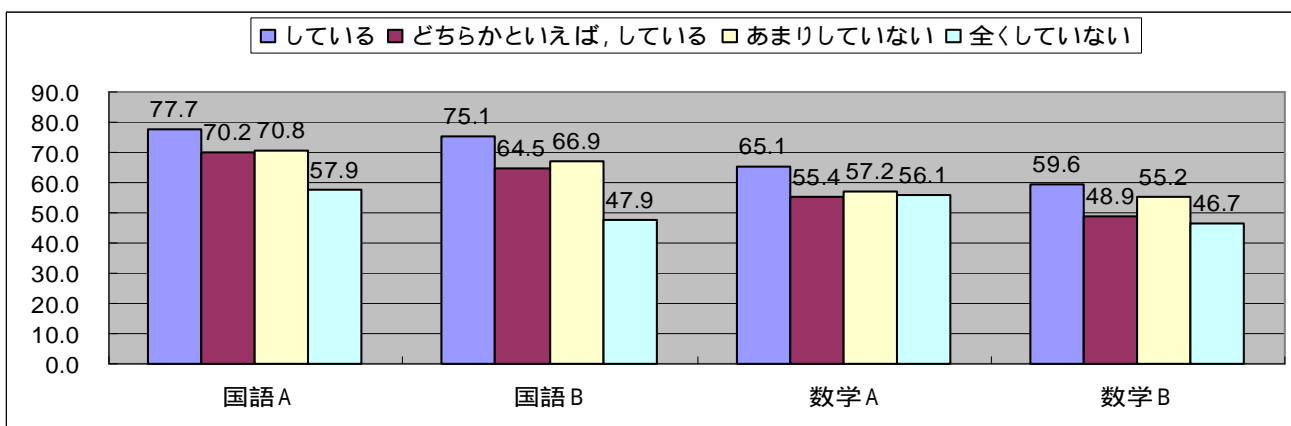
家で学校の宿題をしている生徒の方が、正答率が高い傾向にある。

家で学校の授業の予習・復習をしている生徒の方が、正答率が高い傾向にある

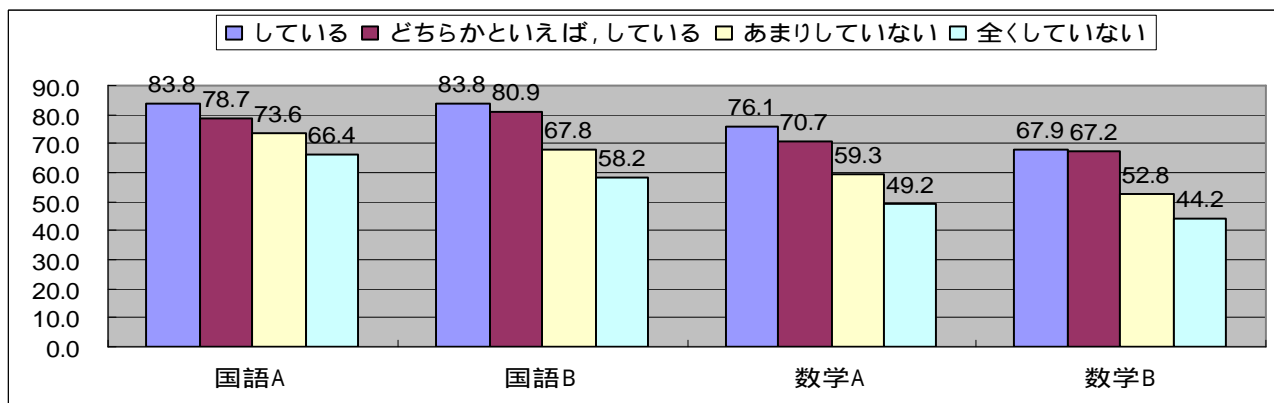
質問：普段、家で1時間以上勉強していますか。



質問：家で学校の宿題をしていますか。



質問：家でテストで間違えた問題を勉強していますか。



【考察】

全国、全道と同様に家庭学習の習慣化が図られている生徒は、学力が高い傾向にある。しかし、本町生徒は、宿題をする割合やテストで間違えた問題を家でやり直す割合が低いので、意図的、計画的に家庭学習取り組む「取り組み方」「意欲の醸成」が今後、必要である。

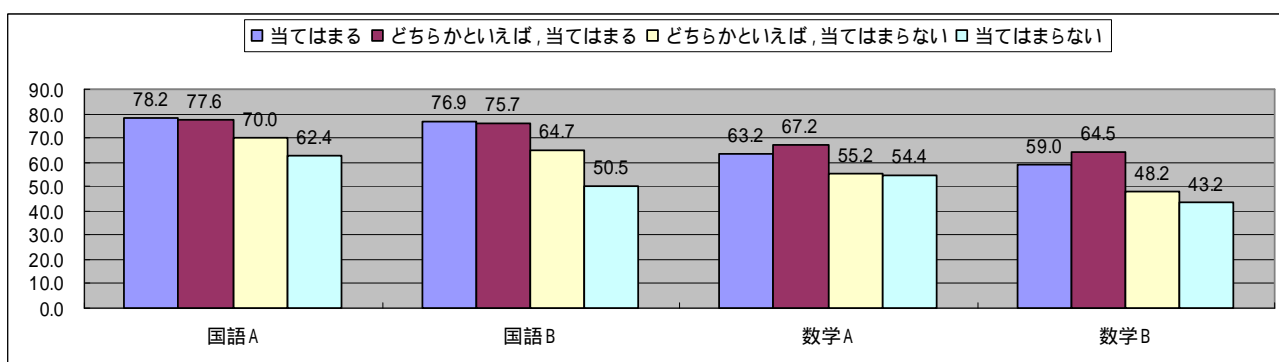
(3) 学校生活について

「学校で友達に会うのは楽しいと思う」生徒の割合は70.4%で、全国に比べ5.4ポイント、全道に比べ3.2ポイント低い。

「学校で好きな授業がある」生徒の割合は58.4%で、全国に比べ5.7ポイント、全道に比べ3.3ポイント高い。

質問紙調査の結果と各教科の正答率との間に相関関係が見られた項目

質問：読書は好きですか。



【考察】

本町の中学校は「友達と会うのを楽しみにしている」割合は低いものの「好きな授業がある」の割合が全国・全道よりもかなり高く、学習に前向きであるといえる。読書と学力は比例しており、今後も魅力ある学校、魅力ある授業に向けた取り組みを進めていく必要がある。

(4) 自尊意識・規範意識について

「自分には、よいところがある」生徒の割合は18.1%で、全国に比べ0.7ポイント、全道に比べ1.2ポイント低い。

「将来の夢や目標を持っている」生徒の割合は48.7%で、全国に比べ5ポイント、全道に比べ4.4ポイント高い。

「学校の規則を守っている」生徒の割合は42.5%で、全国に比べ2ポイント、全道に比べ1.6ポイント低い。

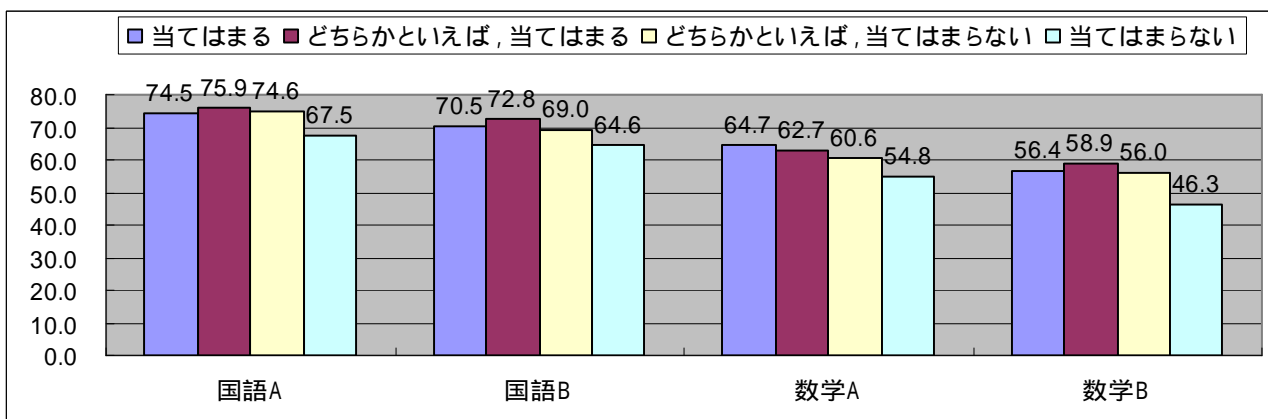
「いじめは、どんな理由があっても行けないことだと思う」生徒の割合は、58.8%で、全国に比べ3.1ポイント、全道に比べ1.6ポイント低い。

「人の役に立つ人間になりたいと思う」生徒の割合は60.2%で、全国に比べ1.3ポイント、全道に比べ0.9ポイント低い。

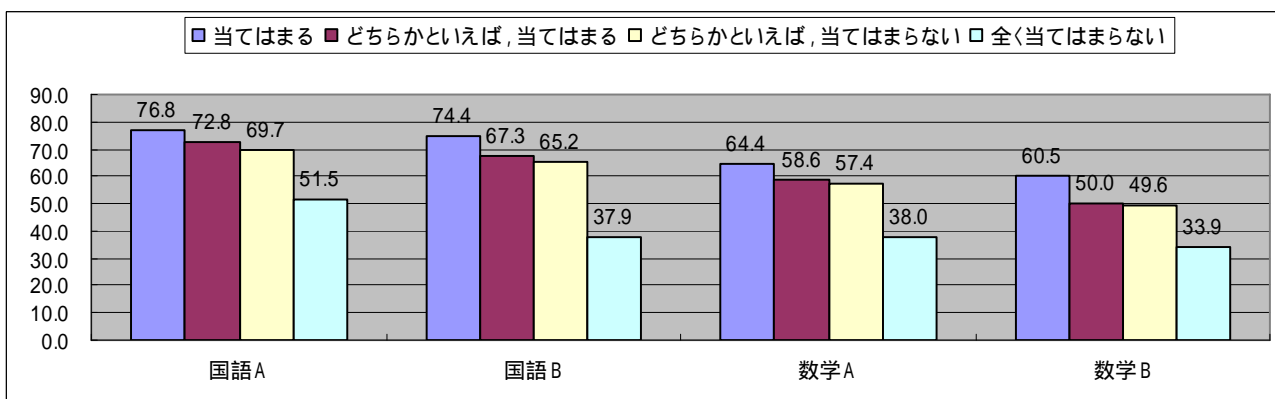
質問紙調査の結果と各教科の正答率との間に相関関係が見られた項目

学校の規則を守っている生徒の方が、正答率が高い傾向にある。
 いじめはいけないうことだと思う生徒の方が、正答率が高い傾向にある。
 将来の夢や目標を持っている生徒の方が、正答率が高い。
 人の役に立ちたいと思っている生徒の方が、正答率が高い。

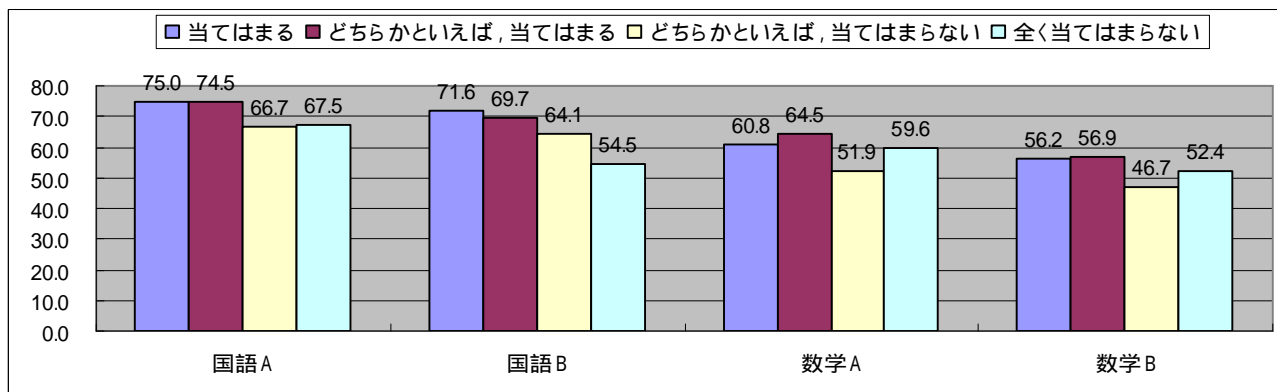
質問：自分には良いところがあると思いますか。



質問：人の役に立つ人間になりたいと思いますか。



質問：いじめは、どんな理由があってもいけないと思いますか。



【考察】

本町の生徒は「将来の夢・目標」についてはしっかり持っている割合は高いが、「いじめ」・「規則を守る」といった善悪の判断力・規範意識は、もっと身に付けさせる必要がある。したがって、達成感、成就感などを体験させる取り組みを充実させて、次につながる意欲をもたせることが望まれる。

(5) 家族とのコミュニケーションについて

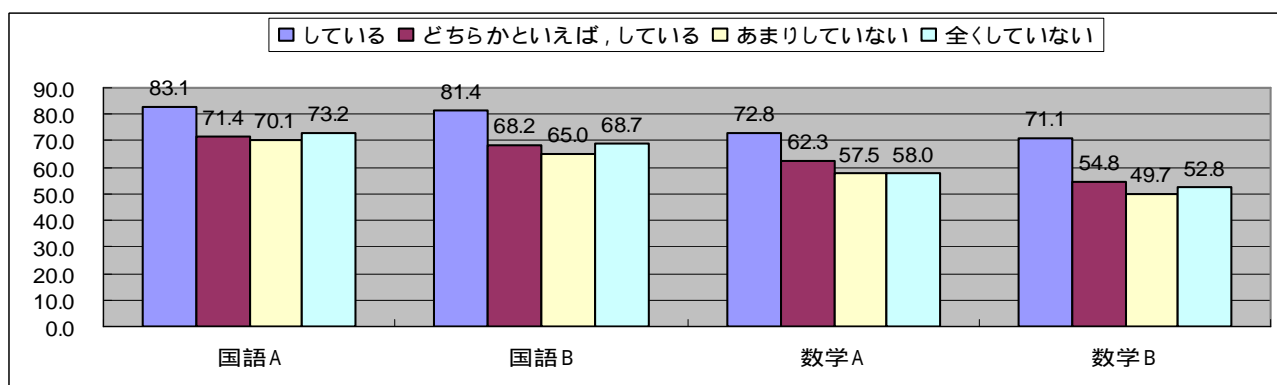
「家の人と普段（月～金曜日）朝食を一緒に食べている」生徒の割合は17.3%で、全国に比べ8.5ポイント、全道に比べ10.1ポイント低い。

「家の人と普段（月～金曜日）夕食を一緒に食べている」生徒の割合は51.3%で全国に比べ5ポイント、全道に比べ7.1ポイント低い。

家の手伝いをする生徒の割合は、20.8%で全国に比べ1.5ポイント、全道に比べ0.6ポイント高い。

質問紙調査の結果と各教科の正答率との間に相関関係が見られた項目

質問：家の人と普段（月～金曜日）朝食を一緒に食べていますか。



【考察】

家の人と朝食・食学を一緒に食べる生徒の割合が本町はかなり低い。家の手伝いをする生徒の割合は全国・全道より高いように、今後さらに円滑な親子のコミュニケーションが図られることが望まれる。

(6) 社会に対する興味・関心について

「新聞やテレビのニュースなどに関心がある」生徒の割合は24.3%で、全国・全道とほぼ同様である。

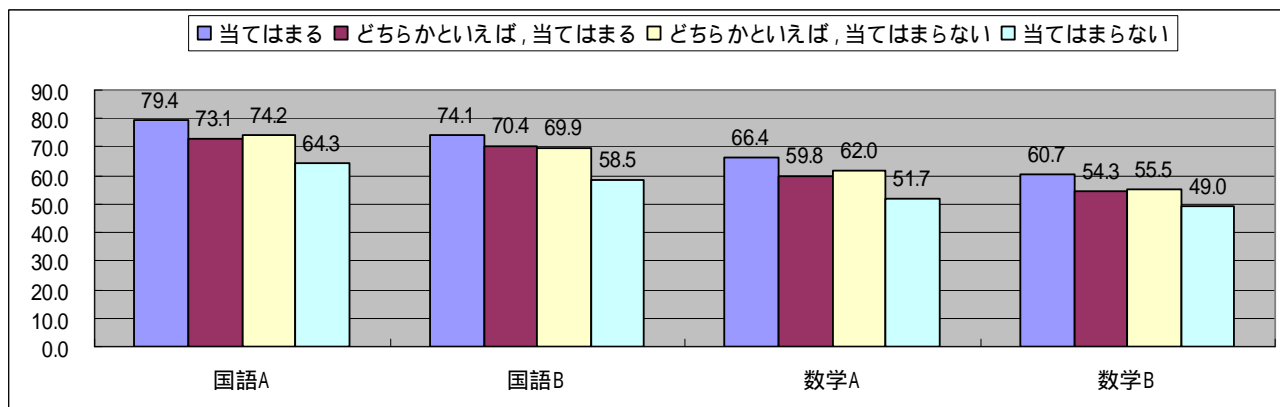
「今住んでいる地域や歴史や自然について関心がある」生徒の割合は20.8%で、全国に比べ2.6ポイント、全道に比べ2ポイント低い。

「今住んでいる地域の行事に参加している」生徒の割合は、35.9%で、全国に比べ1.9ポイント低く、全道に比べ1.8ポイント高い。

総合的な学習が好きな生徒の割合は、21.2%で、全国に比べ0.6ポイント高く、全道に比べ4.2ポイント低い。

質問紙調査の結果と各教科の正答率との間に相関関係が見られた項目

質問：総合的な学習の時間の勉強は好きですか。



【考察】

新聞やテレビのニュースなど、社会に関する関心は、全国・全道とほぼ同様の状況にある。社会の出来事への興味・関心・意欲は、学習への意欲や正答率は深く関係があり、さらなる意欲付けの工夫が求められる。

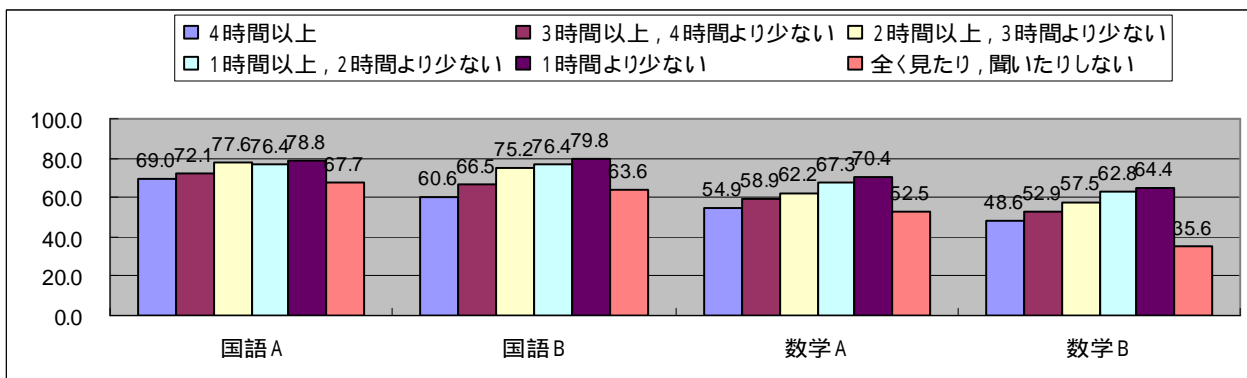
また、今住んでいる地域への関心や行事に参加する生徒が、全国・全道に比較して低いことから、総合的な学習を中心に郷土を愛する心を育てていくことが重要と思われる。

(7) テレビ・ゲーム・インターネット、携帯電話について

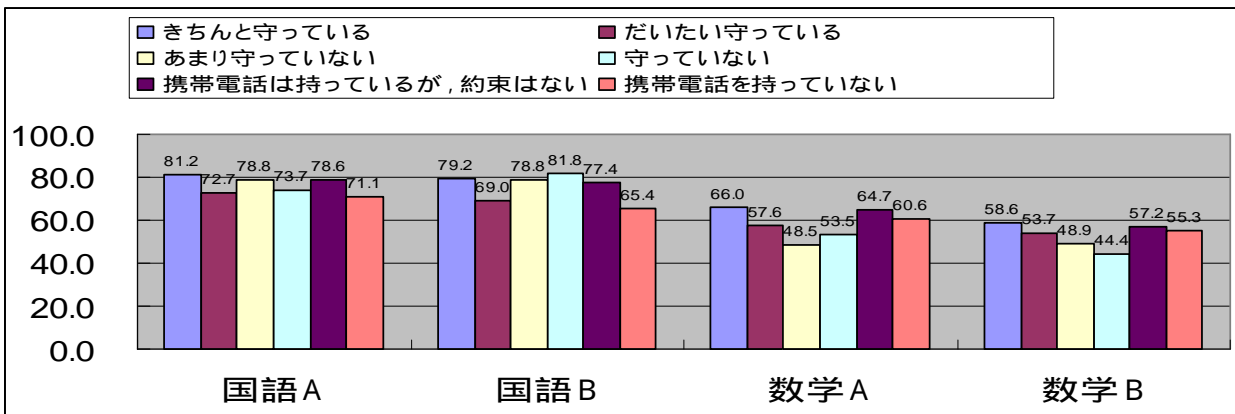
- ・「普段（月～金曜日）1日当たり2時間以上、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりする」生徒の割合は70.8%で、全国に比べ5.9ポイント、全道に比べ1.1ポイント高い。
- ・「普段（月～金曜日）1日当たり1時間以上、テレビゲームをする」生徒の割合は49.6%で、全国に比べ9.6ポイント高く、全道とはほぼ同様である。
- ・携帯電話の使い方について家の人と約束したことを守っている生徒の割合は31%で、全国に比べ5.7ポイント、全道に比べ4.2ポイント低い。

質問紙調査の結果と各教科の正答率との間に相関関係が見られた項目

質問：普段1日あたりどれくらいの時間テレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりしていますか。



質問：携帯電話の使い方について家の人と約束したことを守っている。



【考察】

テレビやゲーム、インターネットをする生徒が全国・全道より高く、携帯電話使用の約束やメールする生徒の管理など、家庭内のルール作りが緊要なる課題となっている。

携帯電話や、メールをほぼ毎日している生徒と全くしていない生徒では、正答率に開きがあり、ネットに関わる事故防止のため、家庭・関係機関との連携を図っていく必要がある。

3. 学校質問紙に関する調査結果

(1) 学習態度

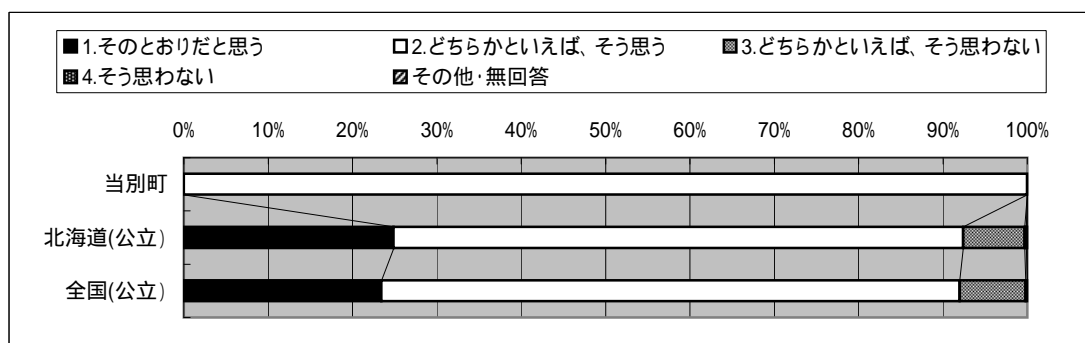
児童生徒が熱意を持って勉強していると思っている学校の割合は、小学校調査においては100.0%で、全国と比較して8ポイント、全道と比較して7.5ポイント高い。

中学校調査においても100.0%で、全国と比較して14.8ポイント、全道と比較して14ポイント高い。

また、前年度と比較して、小学校・中学校ともに増減無しとなっている。

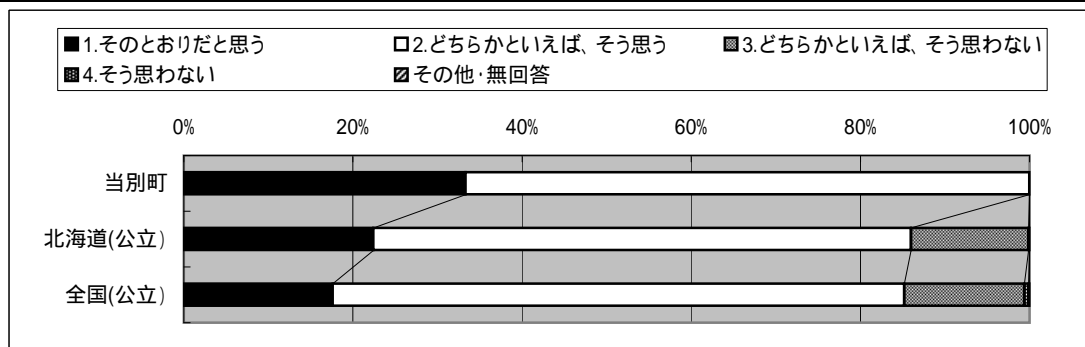
小学校

質問番号	質問事項									
11	児童は、熱意を持って勉強していると思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	0.0	100.0	0.0	0.0						0.0
北海道(公立)	24.9	67.6	7.3	0.2						0.1
全国(公立)	23.4	68.6	7.8	0.2						0.0



中学校

質問番号	質問事項									
11	生徒は、熱意を持って勉強していると思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	33.3	66.7	0.0	0.0						0.0
北海道(公立)	22.4	63.6	13.9	0.1						0.0
全国(公立)	17.6	67.6	14.2	0.5						0.1



【考察】

小学校・中学校とも、熱意を持って勉強していると思っている学校の割合は、全国・全道よりも高く、特に当別町の小学校は総ての学校が「その通り」となっている。今後も熱意が学力向上につながるよう、「興味、関心がもてる授業」、「達成感、成就感を味わえる授業」の構築を一層図っていくことが望まれる。

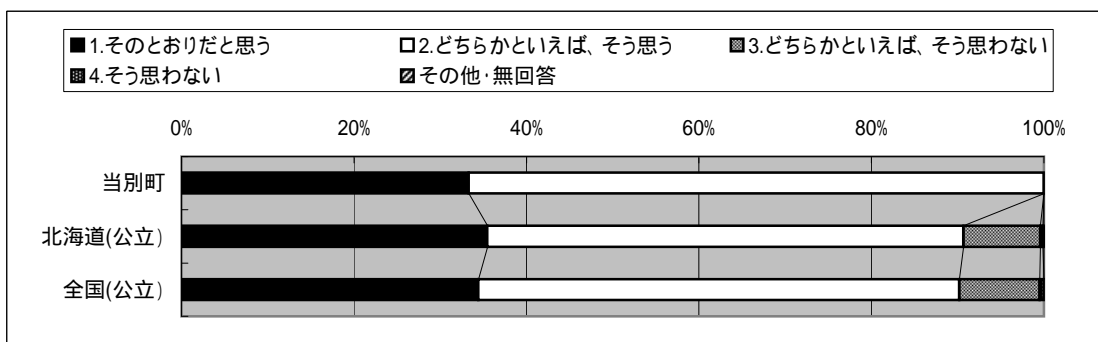
授業中に私語が少なく、落ち着いていると思っている学校の割合は、小学校調査においては100.0%で、全国と比較して9.4ポイント、全道と比較して9.8ポイント高い。

中学校調査においては66.6%で、全国と比較して24ポイント、全道と比較して26.8ポイント低い。

また、前年度と比較して、当別町の小学校は増減無し、中学校は33.3ポイント低くなっている。

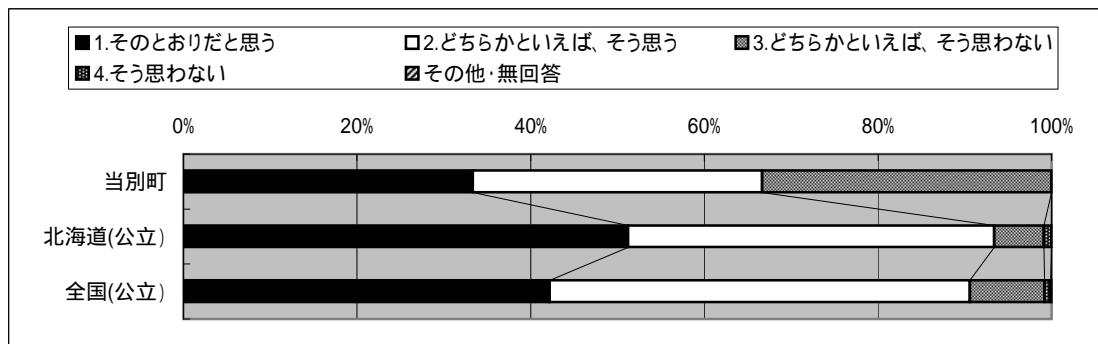
小学校

質問番号	質問事項									
12	児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	33.3	66.7	0.0	0.0						0.0
北海道(公立)	35.4	55.2	8.9	0.3						0.1
全国(公立)	34.4	55.8	9.3	0.5						0.0



中学校

質問番号	質問事項									
12	生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	33.3	33.3	33.3	0.0						0.0
北海道(公立)	51.2	42.2	5.7	0.9						0.0
全国(公立)	42.2	48.4	8.6	0.7						0.1



【考察】

授業中に私語が少なく落ち着いて勉強していると思っている当別町の学校の割合は、全国・全道と比較して小学校では落ち着きが増しており、中学校では逆に落ち着きがなくなっているとなるが、「規律ある学習」は学力向上の基本になるもので今後も規律ある授業実現に取り組むことが大切である。

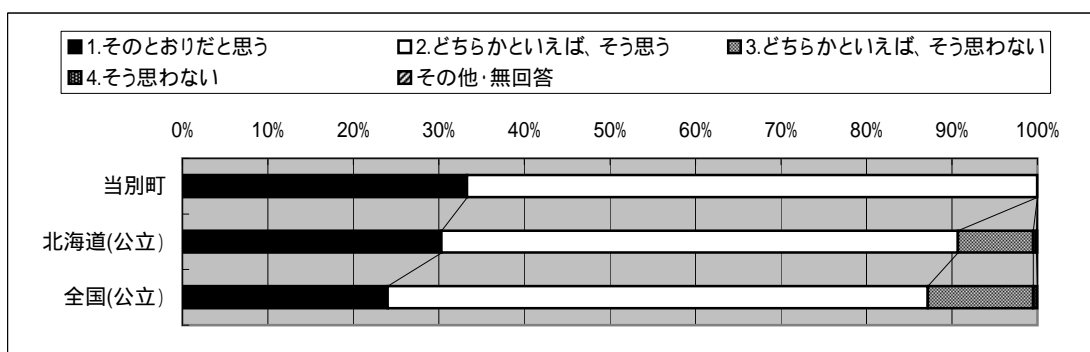
児童生徒が礼儀正しいと思っている学校の割合は、小学校調査においては100.0%で、全国と比較して12.8ポイント、全道と比較して9.3ポイント高い。

中学校調査においては66.7%で、全国と比較して19.8ポイント、全道と比較して26.2ポイント低い。

また、前年度と比較して、当別町の小学校で33.3ポイント高くなり、中学校は同数である。

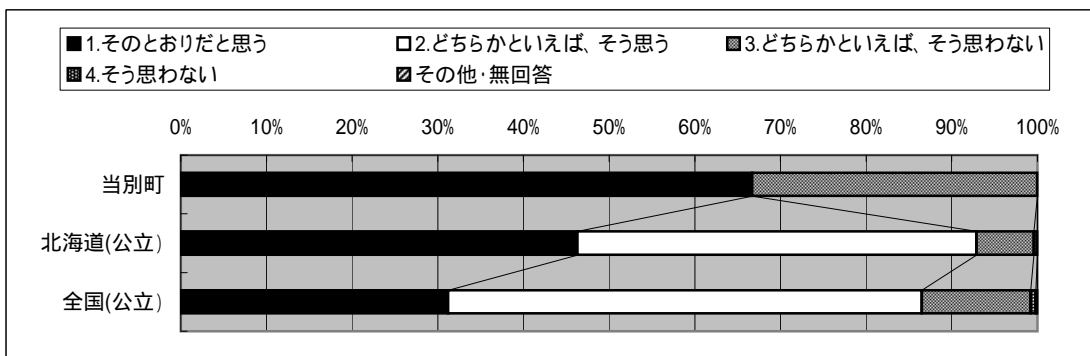
小学校

質問番号	質問事項									
13	児童は、礼儀正しいと思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	33.3	66.7	0.0	0.0						0.0
北海道(公立)	30.3	60.4	8.8	0.4						0.1
全国(公立)	24.0	63.2	12.3	0.5						0.0



中学校

質問番号	質問事項									
13	生徒は、礼儀正しいと思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	66.7	0.0	33.3	0.0						0.0
北海道(公立)	46.3	46.6	6.7	0.4						0.0
全国(公立)	31.2	55.3	12.7	0.6						0.2



【考察】

児童生徒が礼儀正しいと思っている学校の割合は、小学校は向上し中学校は昨年同様となっている。今後も継続して、礼儀やマナーの定着を図っていくことが大切である。

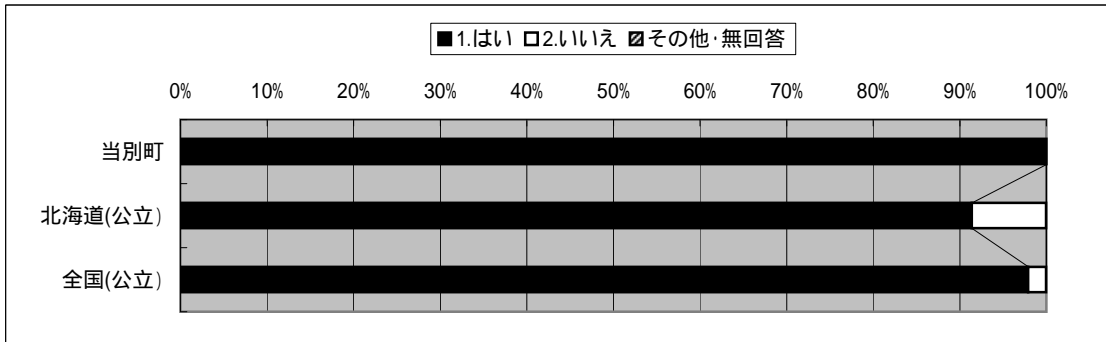
より良い人間関係づくりをつくる上で、「あいさつ」「言葉遣い」などは、大切なことである。したがって、あらゆる教育活動の場面で、意図的に指導すると共に、家庭との協力も必要である。

(2) 学力向上に向けた取組

「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けている学校の割合は、小学校調査においては100.0%で、全国と比較して2.1ポイント、全道と比較して8.6ポイント高い。
 中学校調査においては66.7%で、全国と比較して24.6ポイント、全道と比較して5.8ポイント低い。
 前年度との比較では、小学校で増減無し、中学校で66.7ポイント上がっている。

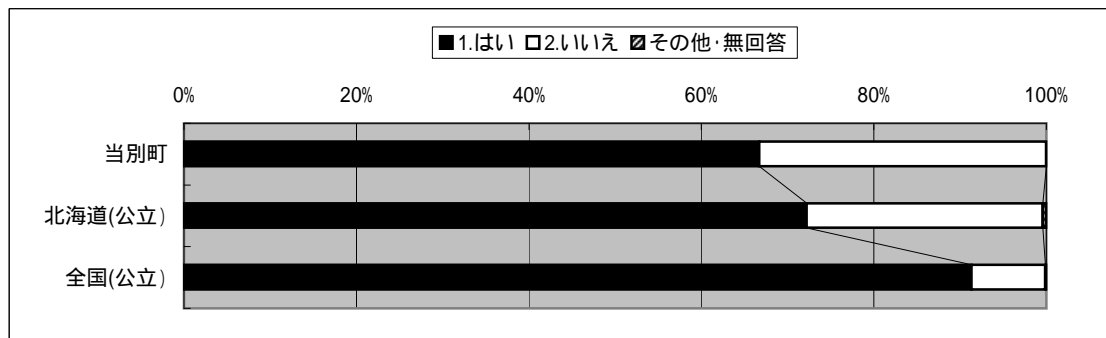
小学校

質問番号	質問事項									
23	「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けていますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	100.0	0.0								0.0
北海道(公立)	91.4	8.6								0.0
全国(公立)	97.8	2.1								0.0



中学校

質問番号	質問事項									
23	「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けていますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	66.7	33.3								0.0
北海道(公立)	72.5	27.5								0.4
全国(公立)	91.3	8.6								0.1



【考察】

小学校では、昨年に引き続き一斉読書の時間を設置して、読書週間の定着をめざしている。中学校でも今年度2/3の学校が取り組むようになり、今後とも充実した読書活動を進める必要がある。

(3) 学習支援

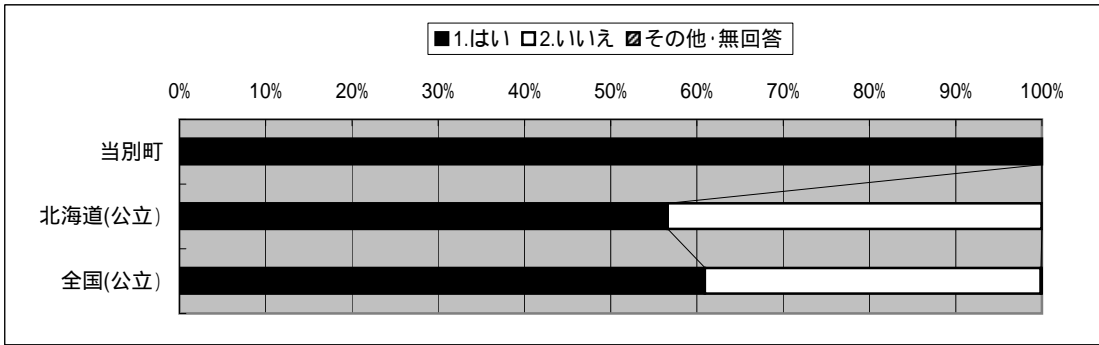
放課後を利用した補足的な学習サポートを実施している学校の割合は、小学校調査においては100.0%で、全国と比較して39ポイント、全道と比較して43.4ポイント高い。

中学校調査においても100%で、全国と比較して16.8ポイント、全道と比較して22.5ポイント高い。

前年度との比較では、小学校で33.3ポイント高くなり、中学校で増減無しとなっている。

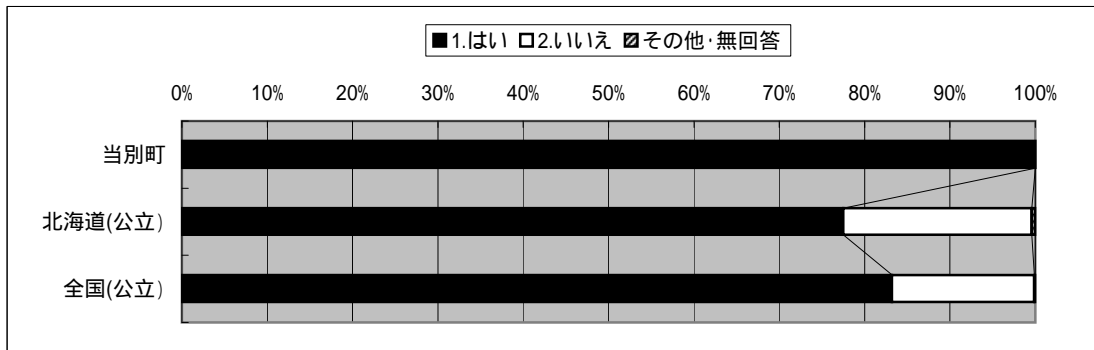
小学校

質問番号	質問事項									
25	放課後を利用した補足的な学習サポートを実施していますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	100.0	0.0								0.0
北海道(公立)	56.6	43.4								0.0
全国(公立)	60.9	39.0								0.1



中学校

質問番号	質問事項									
25	放課後を利用した補足的な学習サポートを実施していますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	100.0	0.0								0.0
北海道(公立)	77.5	22.1								0.4
全国(公立)	83.2	16.7								0.1



【考察】

当別町は全小・中学校において、放課後を利用した補足的な学習に取り組んでいる。いろいろな場面を活用して子どもに学びの習慣をつけさせて基礎基本を定着させ、今後一層、学力向上を図っていくことが大切と思われる。

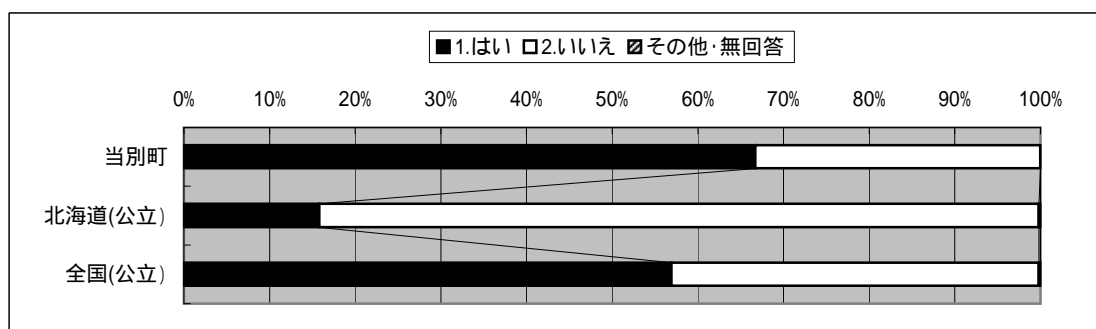
長期休業期間を利用した補足的なサポートを実施している学校の割合は、小学校調査においては66.7%で、全国と比較して9.8ポイント、全道と比較して50.9ポイント高い。

中学校調査においても当別町は100.0%実施で、全国と比較して19.6ポイント、全道と比較して45.7ポイント高い。

前年度と比較して、小学校・中学校ともに33.4ポイント上がっている。

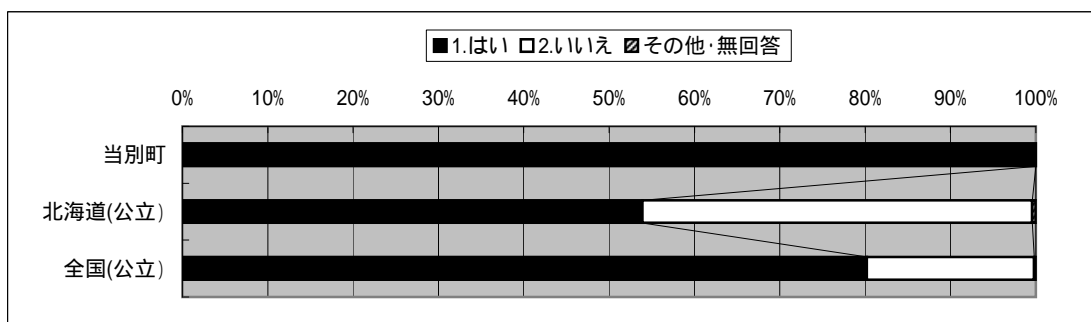
小学校

質問番号	質問事項									
27	長期休業期間を利用した補足的な学習サポートを実施していますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	66.7	33.3								0.0
北海道(公立)	15.8	84.0								0.2
全国(公立)	56.9	42.9								0.2



中学校

質問番号	質問事項									
27	長期休業期間を利用した補足的な学習サポートを実施していますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	100.0	0.0								0.0
北海道(公立)	53.9	45.7								0.4
全国(公立)	80.2	19.6								0.2



【考察】

小学校において、長期休業を利用した補足的な学習に取り組んでいる割合は、全国よりも9.8%、全道よりは50.9%高い。中学校は、全国より19.6%、全道よりは45.7%高い。したがって当別町の小中学校は比較的に長期休業中の補足的な学習に取り組んでいるといえるが、さらに効果的な取り組みとすることが大切である。

(4) 国語科、算数・数学科の指導法

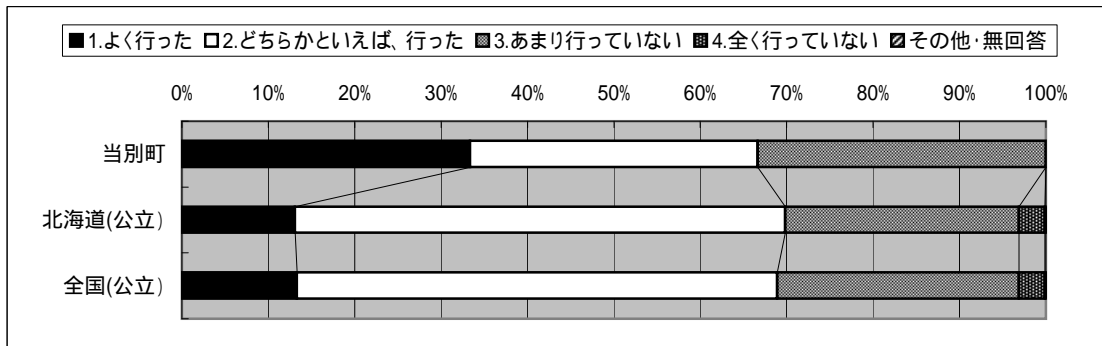
国語の指導として、補充的な学習の指導を行った学校の割合は、小学校調査においては66.7%で、全国と比較して2.2ポイント、全道と比較して3.2ポイント低い。

中学校調査においても66.7%で、全国と比較して7.4ポイント、全道と比較して7.5ポイント低い。

また、前年度と比較して、小学校・中学校では増減無しとなっている。

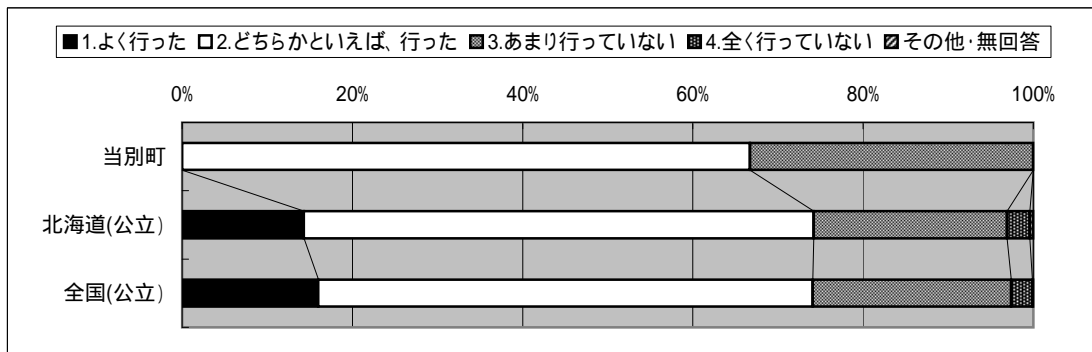
小学校

質問番号	質問事項									
56	国語の指導として、補充的な学習の指導を行いましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	33.3	33.3	33.3	0.0						0.0
北海道(公立)	13.1	56.8	27.1	3.0						0.1
全国(公立)	13.3	55.6	28.0	3.0						0.1



中学校

質問番号	質問事項									
56	国語の指導として、補充的な学習の指導を行いましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	0.0	66.7	33.3	0.0						0.0
北海道(公立)	14.3	59.9	22.7	2.7						0.4
全国(公立)	16.0	58.1	23.3	2.5						0.1



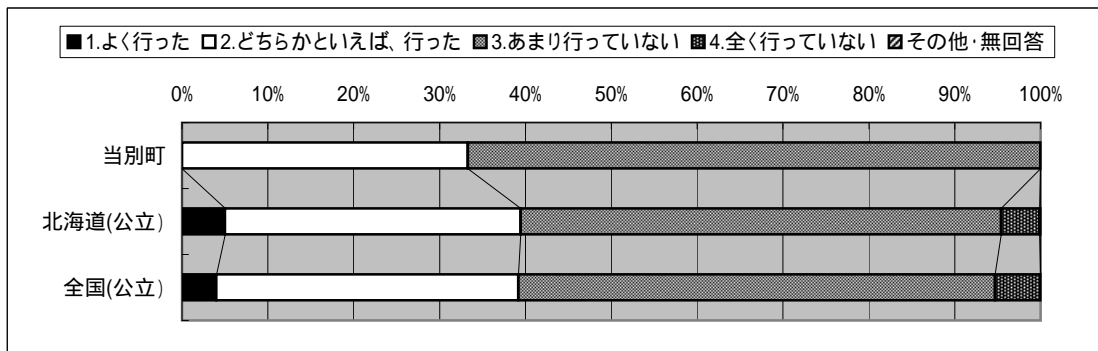
【考察】

小学校・中学校とも当別町は、国語の補充的な指導は全国・全道と比較して若干少ない傾向にあり、国語力の向上が求められていることから、今後一層の取り組みが大切である。

国語の指導として、発展的な学習の指導を行った学校の割合は、小学校調査においては33.3%で、全国・全道と比較して6.1ポイント低い。
 中学校調査においても33.3%で、全国・全道と比較して17.3ポイント低い。
 前年度と比較して、小学校・中学校ともに増減無しとなっている。

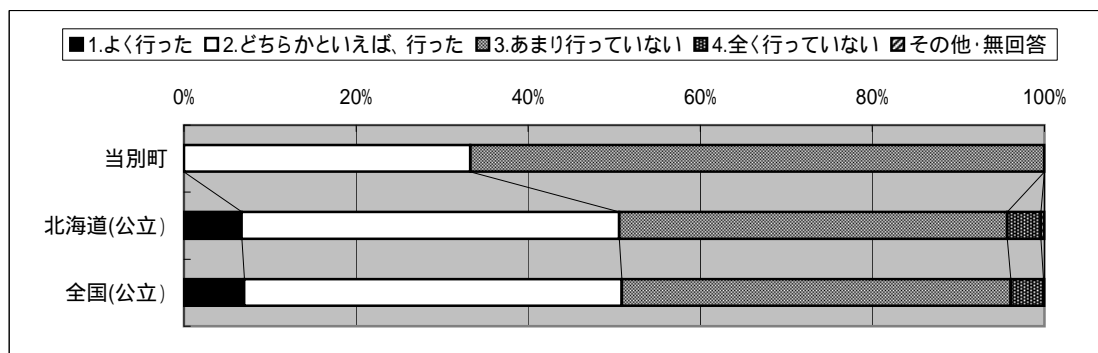
小学校

質問番号	質問事項									
57	国語の指導として、発展的な学習の指導を行いましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	0.0	33.3	66.7	0.0						0.0
北海道(公立)	5.0	34.4	55.9	4.5						0.1
全国(公立)	4.0	35.2	55.5	5.3						0.0



中学校

質問番号	質問事項									
57	国語の指導として、発展的な学習の指導を行いましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	0.0	33.3	66.7	0.0						0.0
北海道(公立)	6.7	43.9	45.1	3.9						0.4
全国(公立)	7.0	43.9	45.2	3.8						0.1



【考察】

国語の発展的な指導を行っている当別町の小中学校の割合は、全国・全道よりも少ない傾向にある。今後は言語事項指導の充実を視野に入れて、発展的な指導に積極的に取り組むことが大切である。

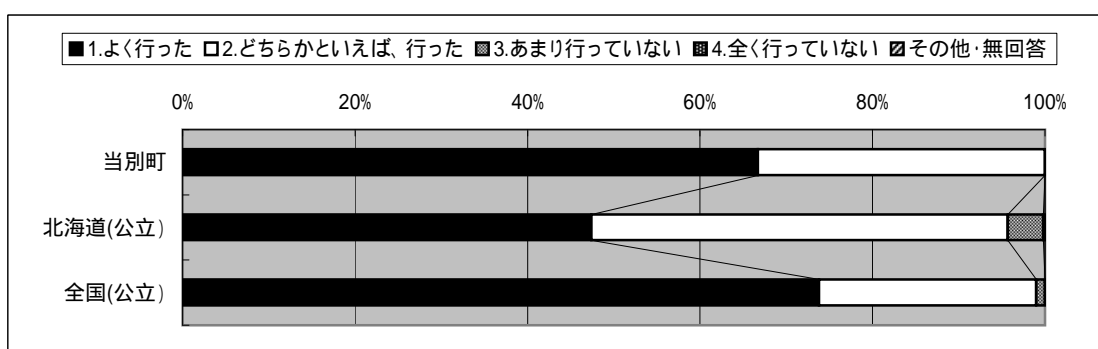
国語の指導として、家庭学習の課題(宿題)をよく与えた学校の割合は、小学校調査においては66.7%で、全国と比較して7.10ポイント低く、全道と比較して19.3ポイント高い。

中学校調査においては66.7%で、全国と比較して20.3ポイント、全道と比較して13.6ポイント低い。

また、前年度と比較して、小学校は同数だが、中学校で33.3ポイント下がった。

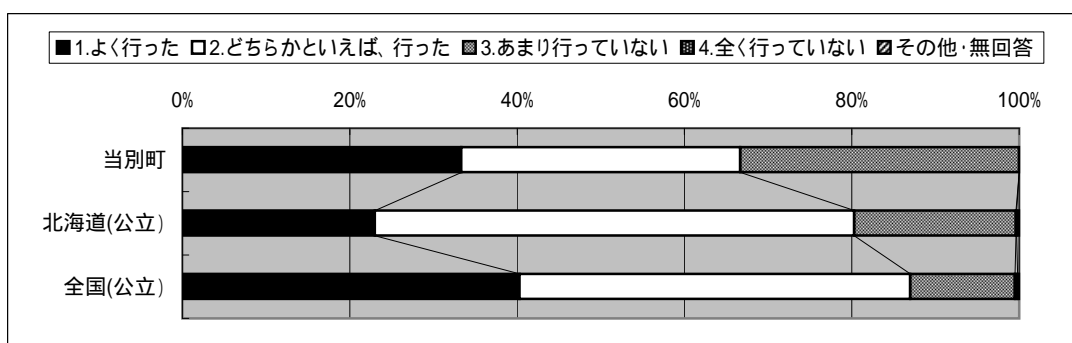
小学校

質問番号	質問事項									
76	国語の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	66.7	33.3	0.0	0.0						0.0
北海道(公立)	47.4	48.3	4.1	0.2						0.0
全国(公立)	73.8	25.2	1.0	0.0						0.0



中学校

質問番号	質問事項									
73	国語の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	33.3	33.3	33.3	0.0						0.0
北海道(公立)	23.0	57.3	19.3	0.1						0.3
全国(公立)	40.3	46.7	12.5	0.3						0.2



【考察】

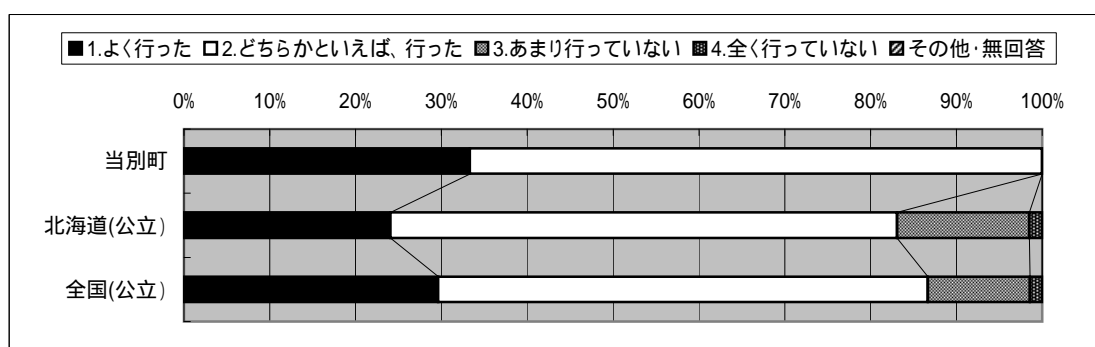
子どもに学ぶ習慣を身に付けさせることは現在の最大教育課題であり、学校が子どもに宿題を出して家庭学習に取り組ませることに意識して取り組むことが必要である。

したがって、次時の授業につながる宿題や子どもの学習意欲を高める内容、与え方などに今後、一層の工夫が大切である。

算数・数学の指導として、補足的な学習の指導を行った学校の割合は、小学校調査においては100.0%で、全国と比較して13.3ポイント、全道と比較して16.9ポイント高い。
 中学校調査においては100.0%で、全国と比較して13.8ポイント、全道と比較して14.3ポイント高い。
 また、前年度と比較して、小学校も中学校も33.3ポイント上がっている。

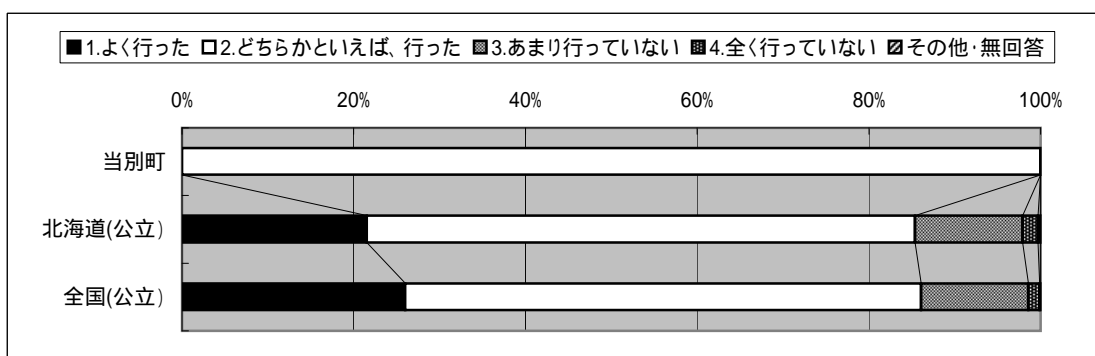
小学校

質問番号	質問事項									
63	算数の指導として、補足的な学習の指導を行いましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	33.3	66.7	0.0	0.0						0.0
北海道(公立)	24.1	59.1	15.4	1.5						0.0
全国(公立)	29.6	57.1	11.9	1.4						0.0



中学校

質問番号	質問事項									
62	数学の指導として、補足的な学習の指導を行いましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	0.0	100.0	0.0	0.0						0.0
北海道(公立)	21.5	63.9	12.5	1.8						0.3
全国(公立)	26.0	60.1	12.5	1.3						0.1



【考察】

小学校においても中学校においても、算数・数学の補足的な指導を行っている割合は100%で、全国・全道よりも高い。今後は、系統的に基礎学力を高めるため、中身を工夫した補足的な指導が大切である。

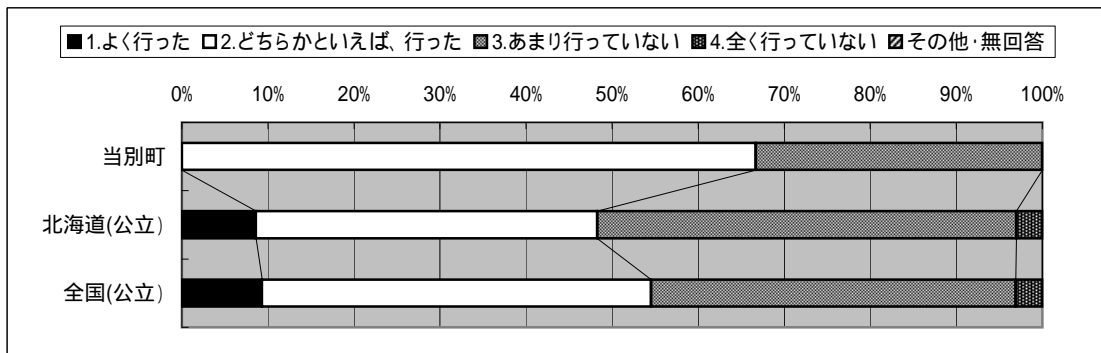
算数・数学の指導として、発展的な学習の指導を行った学校の割合は、小学校調査においては66.7%で、全国と比較して12.2ポイント、全道と比較して18.4ポイント高い。

中学校調査においては66.7%で、全国と比較して11.2ポイント、全道と比較して13.3ポイント高い。

また前年度と比較して、33.3ポイントが小学校では下がり、中学校では上がっている。

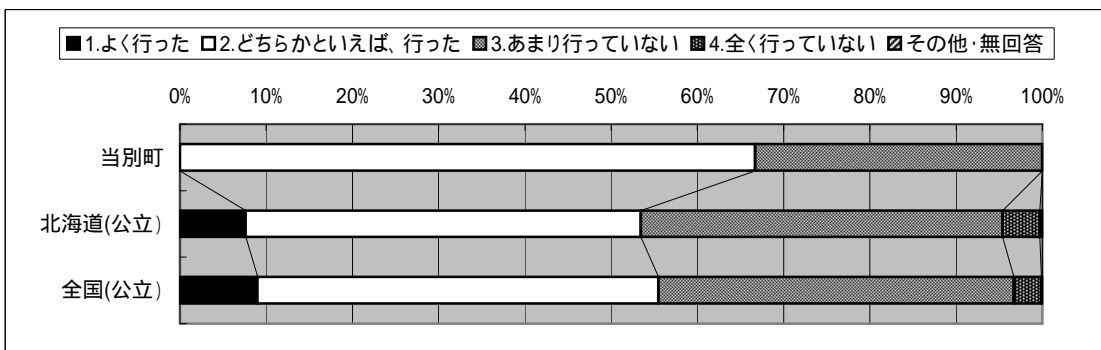
小学校

質問番号	質問事項									
64	算数の指導として、発展的な学習の指導を行いましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	0.0	66.7	33.3	0.0						0.0
北海道(公立)	8.6	39.7	48.7	3.0						0.0
全国(公立)	9.3	45.2	42.3	3.1						0.0



中学校

質問番号	質問事項									
63	数学の指導として、発展的な学習の指導を行いましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	0.0	66.7	33.3	0.0						0.0
北海道(公立)	7.6	45.8	41.9	4.3						0.3
全国(公立)	9.0	46.5	41.2	3.2						0.1



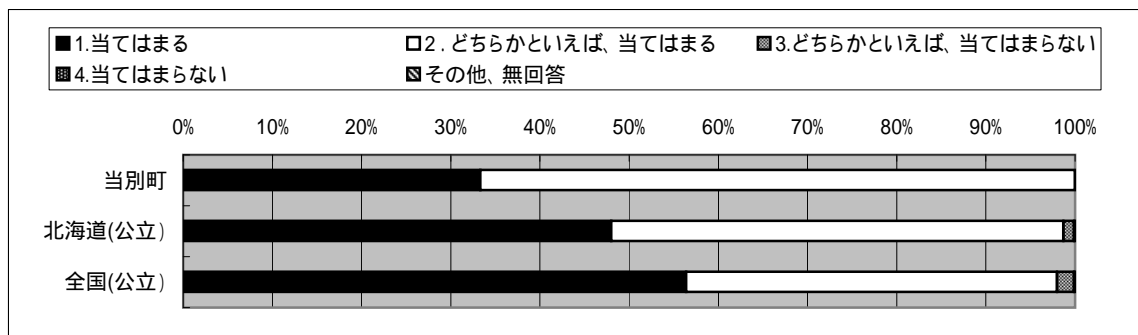
【考察】

昨年度から比べ、当別町の小学校において発展的な指導を行う割合は下がり、中学校では上がっている。今後とも、子どもの実態分析・把握等を行い、指導の工夫を図っていく取り組みが必要である。

算数・数学の指導として、計算問題などの反復練習をする授業を行った学校の割合は、小学校調査においては100.0%で、全国と比較して2ポイント、全道と比較して1.3ポイント高い。中学校調査においても100.0%で、全国と比較して5ポイント、全道と比較して5.4ポイント高い。

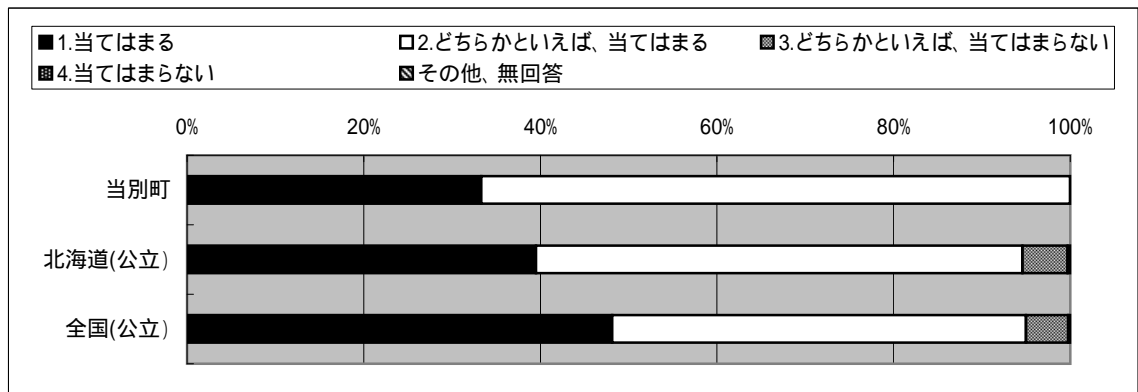
小学校

質問番号	質問事項									
66	算数の指導として、計算問題など反復練習をする授業を行いましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	33.3	66.7	0.0	0.0						0.0
北海道(公立)	48.0	50.7	1.2	0.1						0.0
全国(公立)	56.4	41.6	1.9	0.1						0.0



中学校

質問番号	質問事項									
65	数学の指導として、計算問題などの反復練習をする授業を行いましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	33.3	66.7	0.0	0.0						0.0
北海道(公立)	39.4	54.9	5.1	0.3						0.3
全国(公立)	48.1	46.8	4.8	0.2						0.1



【考察】

小学校・中学校の算数・数学の指導として、計算問題などを繰り返し練習して基礎計算力を高めることは、子どもの持続力・集中力を高め、数学的な思考力を養う元になる極めて重要な取り組みである。したがって今後とも継続し、内容を高めていくことが必要である。

(5) 地域の人材の活用

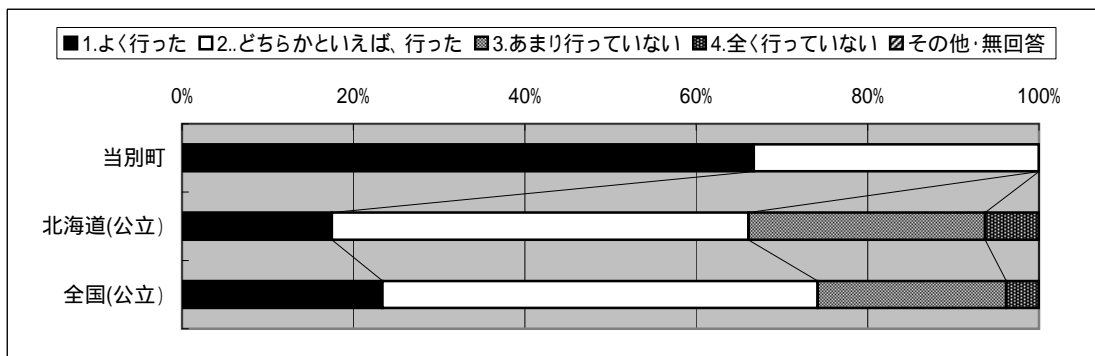
地域の人材を外部講師として招聘した授業を行った学校の割合は、小学校調査においては100.0%で、全国と比較して25.8ポイント、全道と比較して33.9ポイント高い。

中学校調査においては100.0%で、全国と比較して43.3ポイント、全道と比較して43.2ポイント高い。

また、前年度と比較して、小学校で33.3ポイント上がり、中学校で増減無しとなっている。

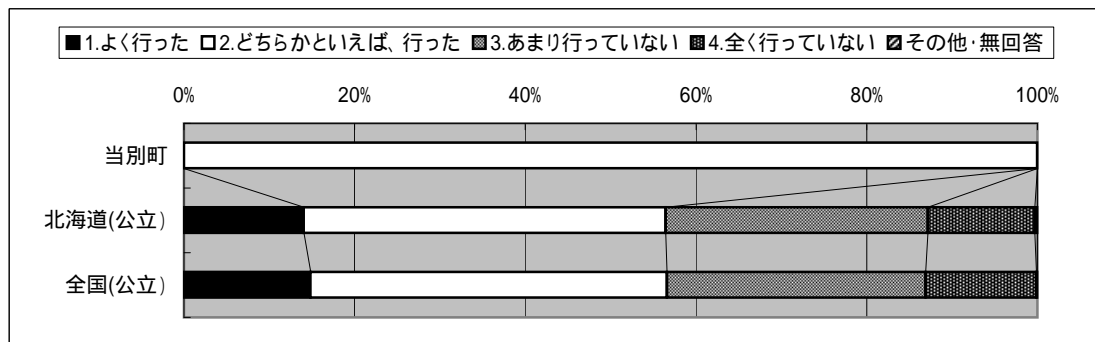
小学校

質問番号	質問事項									
69	地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	66.7	33.3	0.0	0.0						0.0
北海道(公立)	17.5	48.7	27.6	6.3						0.0
全国(公立)	23.4	50.8	22.0	3.8						0.0



中学校

質問番号	質問事項									
67	地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	0.0	100.0	0.0	0.0						0.0
北海道(公立)	14.0	42.4	30.7	12.5						0.3
全国(公立)	14.8	41.8	30.3	13.0						0.1



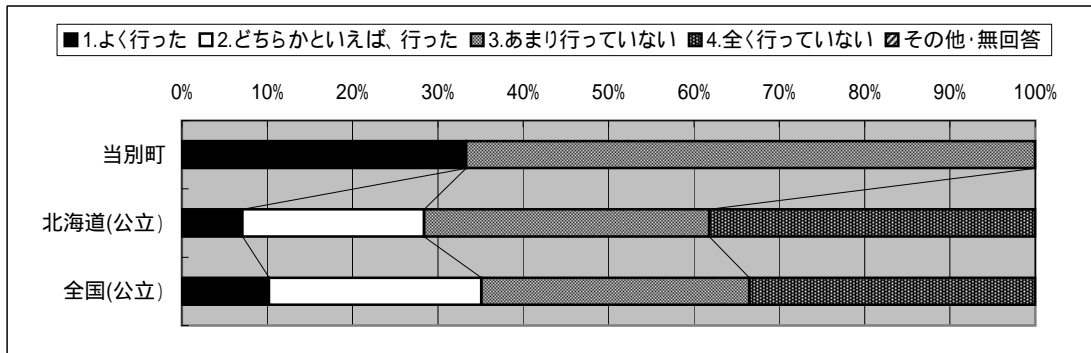
【考察】

当別町の小・中学校において、地域の人材を活用した授業を行っている割合は全国・全道より高い。したがって今後も幅広く地域の人材などを活用して、教科の指導だけでなく食育の指導や職場体験学習など総合的な学習の時間でも活用を図っていくことが大切である。

ボランティア等による授業サポート(補助)を行った学校の割合は、小学校調査においては33.3%で、全国と比較して1.8ポイント低く、全道と比較して4.9ポイント高い。
 中学校調査においては33.3%で、全国と比較して14.8ポイント、全道と比較して22.7ポイント高い。

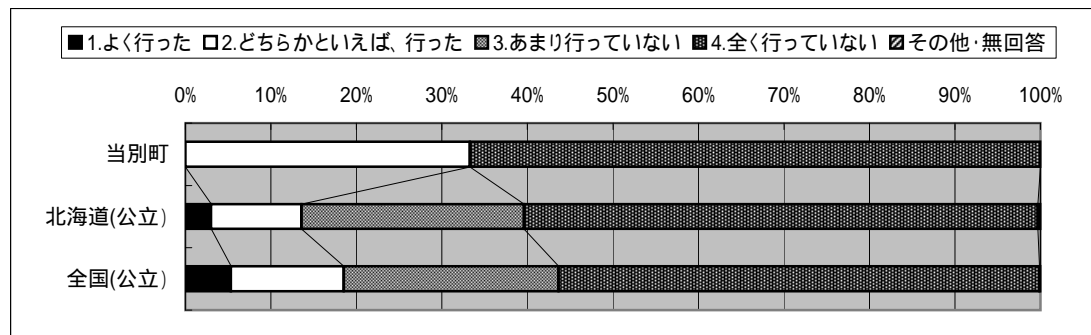
小学校

質問番号	質問事項									
70	ボランティア等による授業サポート(補助)を行いましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	33.3	0.0	66.7	0.0						0.0
北海道(公立)	7.1	21.3	33.4	38.2						0.0
全国(公立)	10.2	24.9	31.4	33.5						0.0



中学校

質問番号	質問事項									
68	ボランティア等による授業サポート(補助)を行いましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	0.0	33.3	0.0	66.7						0.0
北海道(公立)	3.0	10.6	26.0	60.1						0.3
全国(公立)	5.3	13.2	25.1	56.2						0.1



【考察】

当別町の小学校においては、全国・全道とそれほど相違はない。中学校では全国・全道より活用率が高いが、これからは学校支援地域本部事業の取り組みとも合わせて、今後一層の取り組みが大切である。

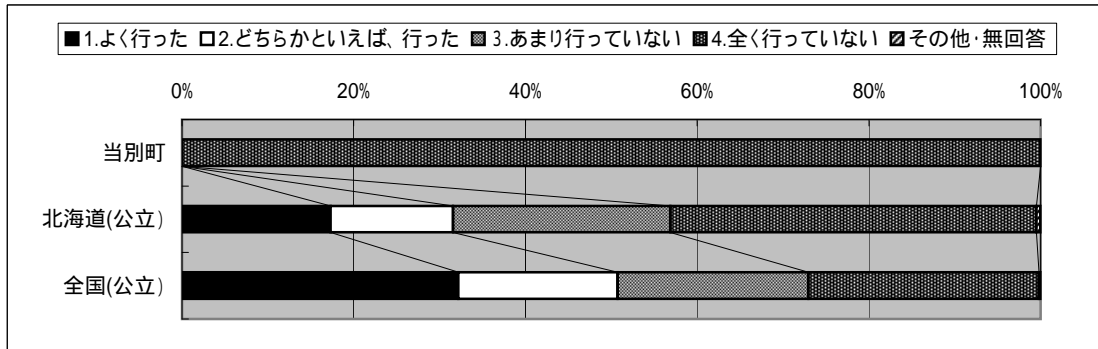
(6) 習熟度別少人数指導

算数・数学の指導として、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行っている学校の割合は、小学校調査においては0.0%で、全国と比較して27.6ポイント、全道と比較して12.6ポイント低い。

中学校調査においても0.0%で、全国と比較して26.3ポイント、全道と比較して14.8ポイント低い。

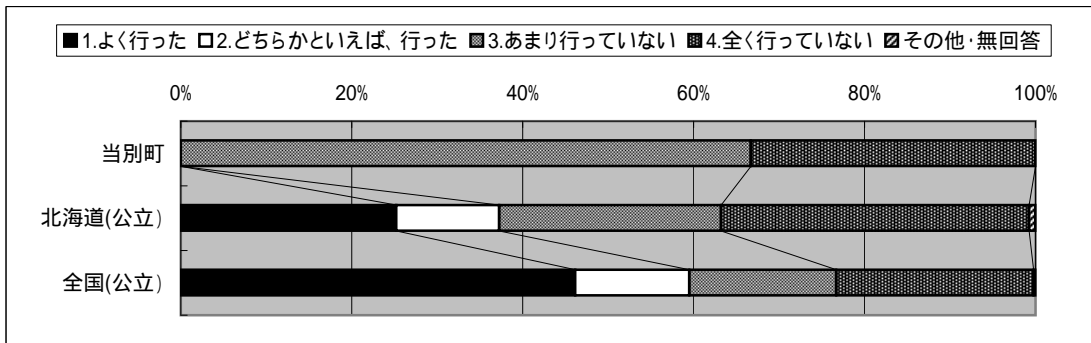
小学校

質問番号	質問事項									
50	前年度の算数の授業において習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行いましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	0.0	0.0	0.0	33.3	66.7					0.0
北海道(公立)	6.9	5.7	10.1	17.0	60.1					0.2
全国(公立)	17.5	10.1	12.1	14.6	45.6					0.1



中学校

質問番号	質問事項									
50	前年度の数学の指導として習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行いましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0					0.0
北海道(公立)	10.0	4.8	10.3	14.3	60.3					0.3
全国(公立)	20.4	5.9	7.6	10.2	55.8					0.1



【考察】

当別町の小学校においては、全国・全道より若干、少人数指導を行う割合は低く、中学校においてははかり取り組まれている。子どもの理解のはやさや定着の実態に応じて、きめ細かな指導を進めることは極めて重要で、さらなる工夫が大切である。

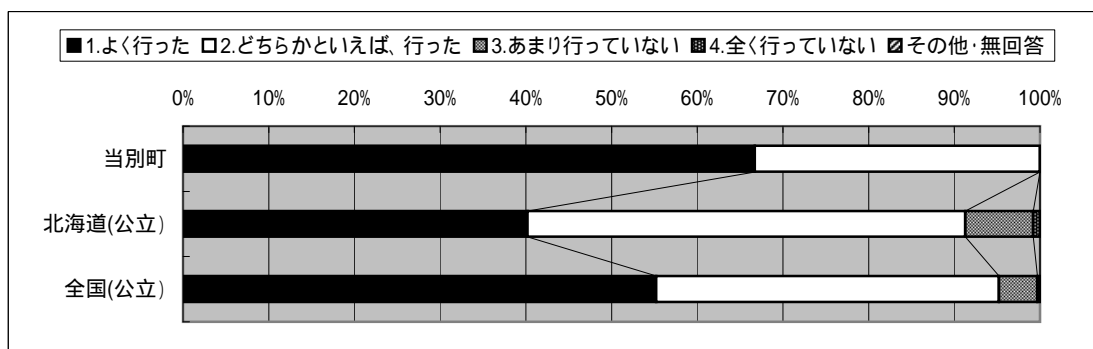
算数・数学の指導として、児童生徒に与えた家庭学習の課題について、指導・評価を行った学校の割合は、小学校調査においては100.0%で、全国と比較して11.5ポイント、全道と比較して26.5ポイント高い。

中学校調査においても100.0%で、全国と比較して19.4ポイント、全道と比較して29.7ポイント高い。

また、前年度と比較して、小学校・中学校ともに増減無しとなっている。

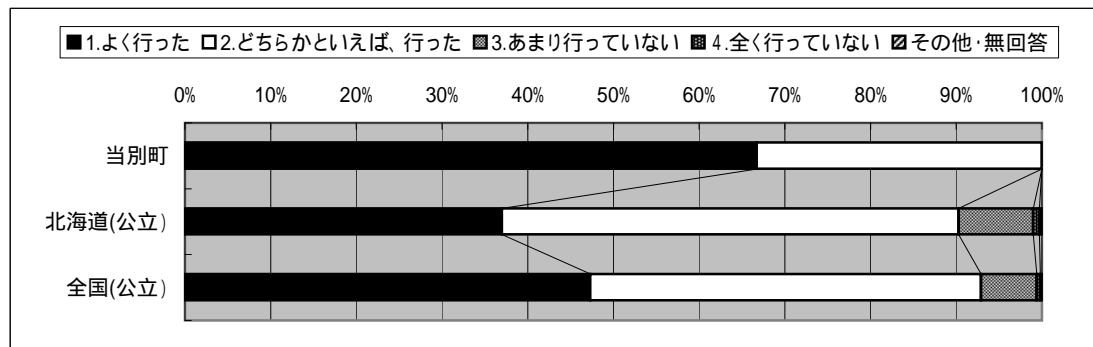
小学校

質問番号	質問事項									
83	算数の指導として、児童に与えた家庭学習の課題について、指導・評価を行いましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	66.7	33.3	0.0	0.0						0.0
北海道(公立)	40.2	51.1	7.9	0.8						0.0
全国(公立)	55.2	40.0	4.5	0.3						0.0



中学校

質問番号	質問事項									
80	数学の指導として、児童に与えた家庭学習の課題について、指導・評価を行いましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他・無回答
当別町	66.7	33.3	0.0	0.0						0.0
北海道(公立)	37.0	53.3	8.7	0.7						0.3
全国(公立)	47.3	45.6	6.5	0.4						0.2



【考察】

当別町の小学校・中学校とも、算数・数学の家庭学習の課題について、指導評価を行った割合は100%で、全国・全道よりも高く、今後は、中身の充実が大切である。
家庭学習の習慣化を図るには、課題を出すだけでなく、子どもの努力の様子をしっかりと評価し励ますことが大切であり、子どもの意欲を高める指導、工夫が必要である。